

名張の人口減少に関する調査研究報告書

名張商工会議所・四日市大学共同研究

2026年3月25日

四日市大学公共政策研究所

名張の人口減少に関する調査研究報告書	1
序章 本研究の目的と背景	1
1章 調査対象地・名張市の概略	4
2章 名張市の未婚化.....	13
3章 教育と子育て	20
4章 名張市の社会減に関する実情の整理.....	29
5章 産官学の連携：政策助言システムの観点から	37
単純集計表.....	51
自由回答	92

序章 本研究の目的と背景

三田泰雅

1. 研究の背景

この報告書は、名張商工会議所と四日市大学の共同研究と、四日市大学特定プロジェクト研究「実践する総合政策」の成果である。

2024年1月、名張市商工会議所から四日市大学へ相談が寄せられた。相談の内容は、名張市における人口減少が市域の経済に無視できない影響を与えており、商工会議所として人口減少対策を最優先課題に位置づけたため、対策を考えたいということであった。

さらに、名張市では2000年以降人口の減少が続いており、人口減少の背景にある若年層の流出を食い止めたいこと、人口回復のために外国人住民の定住を図りたいこと、そのための資源として郊外住宅地の空き家を活用したいこと等の説明があり、商工会議所からは大学に助言や共同企画の実施を求められ、大学と中長期的な協力関係を構築することで合意した。

2024年度は商工会議所と大学の双方で情報収集と体制整備につとめることとし、四日市大学では「特定プロジェクト研究」に位置づけ、先行して研究体制を構築していった。プロジェクトは四日市大学の公共政策研究所がテーマを引き受け、総合政策学部にも所属する教員たちを中心に研究チームが組織された。教員たちはそれぞれの専門分野を生かして担当の分野に分かれて研究を分担することになった。

2025年度からは本格的に連携がスタートし、名張商工会議所では名張市や四日市大学のほか、会員企業を含めた関係各所の参加を得て「人口減少対策特別委員会」を設置する運びとなった。市の人口減少は行政だけでなく産業界としても取組みが必要だとの認識のもと、人口の自然減対策を検討する第一小委員会、社会減対策を分担する第二小委員会、外国人住民の定住策を検討する第三小委員会の三つの小委員会を組織し、人口減少対策を検討することになった。四日市大学からは各小委員会の委員を出すことになり、結果として各小委員会の委員長を特定プロジェクト研究のメンバーがつとめることになった。

同じく2025年度には名張商工会議所と四日市大学の共同研究がスタートし、先行する四日市大学の特定プロジェクト研究と併行する形で人口減少対策の検討を進めることになった。共同研究と特定プロジェクト研究は双方を補う形で実施することにし、共同研究においては、未婚化や育児環境に対する市民意識をたずねるアンケートを実施することとなった。

このとき商工会議所としては研究と併行して実際に対策を進めたいとの希望があったため、委員会によっては2025年度からいくつかの企画を実施することにし、共同研究と特定プロジェクト研究のほうで主に情報収集と分析を担ってゆく形になった。

2. 研究の目的と位置づけ

2.1 研究の目的

プロジェクト全体の目指すところは、名張市における人口減少に対して有効な対策を立案し実施することである。このためにまずは、今起きている問題の背景とメカニズムを明らかにしなければならない。そこで今年度の本研究では、名張市の人口減少に関わる問題をいくつかの課題に切り分け、それぞれの現状と課題を整理することを目的とした。

もちろん人口減少は20年以上も続いている現象であるし、その要因も一定の分析がなされている(名張市 2021)。本研究に関係するところでは、市外に転出する人口の大半は若年層が占めていること。あるいは、市内に多数の空き家が存在しており、この活用によって移住者の増加につなげたいこと、等である。

これらの課題に特効薬のような解決策を示すことは難しいかもしれないが、少なくとも地域の実情に沿って問題を解きほぐし、少しでも状況の改善につながるような提案はできるはずである。本研究ではこれを引き継ぎ、なぜそのような現象が起こっているのかを考え、対策のヒントを得ようとした。

2.2 研究の位置づけ

本研究は名張市の人口減少という喫緊の課題に対する取り組みであると同時に、四日市大学にとっては、大学の使命の一つである社会貢献という側面をもっている。

四日市大学は社会的課題の解決を考える総合政策学部をおいている。社会の具体的課題に対して複数分野の専門知を動員し、対策の提案、実行、評価までを行うプロセスとして総合政策を位置づけるならば、対象地である名張市が抱える人口減少という課題に解決の糸口を見出そうとする本プロジェクトは、総合政策そのものだっていい。総合政策学部や、総合政策との関係が深い公共政策研究所が今回のプロジェクトを実施するのは、このような理由による。

さらにこのプロジェクトでは、地域連携と研究の接続強化をはかろうとする。名張市が抱える未婚化や人口流出、外国人住民の定住と共生、空き家問題といった地域課題は、全国の地方都市が抱える社会的課題でもある。こうした具体的でありながら普遍的なテーマは、研究課題として取り組むべきものであるだろう。

ところが、ときに大学の地域連携は、研究とはまったく別の行為として行われることが少なくない。そうすると研究者や大学は、ただでさえ厳しいリソースをさらに割かれることになってしまい、規模の小さな大学になるほど負担が大きくなり、かえって地域から遠ざかることになりかねない。地域の課題を研究テーマとして設定しなおし、研究対象に位置づけることは、規模の小さな大学であるほど重要な課題となりうる。

教員の研究テーマは、必ずしも大学の所在地域と関係があるとは限らない。しかし地域の課題に対して専門知を生かして取り組むことは、特に地方大学にとって重要な役割でもあるため、できれば教員は地域に根差した研究テーマを持つことが望ましい。地域の具

体的課題に専門知をたずさえて取り組むと同時に、そのテーマを学術的にも意義のある問題に位置づけなおし、普遍的な問いに磨き上げてゆく力は、地方大学に籍をおく研究者にとって必要かつ重要な能力でもある¹。

ところがこうした能力を体系的に身につける機会は限られている。そこで今回のプロジェクトを通じて、地域の具体的課題を複数の社会科学的な問題として捉え直すことで、教員の研究関心をひろげ、地方大学としての役割を強化する機会につなげてゆきたい。

3. 本報告書の構成

以下の各章では、次のような内容を扱っている。はじめに1章では調査対象地である名張市について古代から近現代までの歴史をたどり、本研究の基本的視座を示す。続いて2章では、名張市の未婚化をテーマとして、名張商工会議所との共同研究として実施した市民向け意識調査の結果をもとに、市民の婚姻状況や未婚者の意識を確認する。3章では名張市の教育と子育てに注目し、高校生アンケートの結果からみえる高校生の進路選択とその背景を検討したのち、子育て事業への取組みとその課題を整理している。4章では人口減少対策の第2小委員会を取り扱う名張市の社会減をテーマに、名張市の人口移動の推移と、社会増に向けた取組の現状を確認する。第5章では、本研究プロジェクトそのものを研究対象とし、産官学の連携の取組みがもつ利点と課題を明らかにする。

これらの研究は本プロジェクトの一部でありつつ、それぞれの担当者が分担して個別に行ってきたものでもある。全体として名張市の人口減少に対する解決の糸口を探ろうとする点では関心を共有しており、我々はこれを総合的な視点に立って社会的課題を考える、総合政策的なアプローチの一例として考えている。

このように、以下の各章は今年度のテーマである現状認識に重きをおいている。今回の知見をふまえ、どのような提言につなげてゆけるかを今後の課題としたい。

参考文献

名張市、『第2期名張市まち・ひと・しごと総合戦略』、2021年

¹この考え方は弘前大学や名古屋大学で活躍された田中重好先生に教えていただいた。

1章 調査対象地・名張市の概略

小林 慶太郎 (第1節)

浅井 雅 (第2節)

三田 泰雅 (第3節)

本章では、本研究が調査対象地としている名張市について、その概略を主に歴史的な面から記し、名張市が調査対象地としてどのような特徴を持っており、この地での研究が、どのような社会的な有用性を持ち得るのかについて、あらかじめ明らかにしておきたい。

以下では、一般に東海地方と括られることの多い三重県にあって、名張市は歴史的にも関西地方との結びつきが強く、両地方の結節点となっていること、その歴史や立地から、宿場町に端を発する古い市街地と、近郊の農村集落、関西方面へのベッドタウンとして開発された新興住宅地といった、多様なエリアを含む市であること、そして、中世以来の自治の伝統があることなどを示していくことにする。

1. 古代・中世の名張

1.1 古代名張と東大寺

「なばり」という地名は古く、『古事記』安寧天皇の条には、安寧天皇の子である師木津日子命（しきつひこのみこと）の子の一人が、伊賀の那婆理（なばり）の稲置の祖であると書かれているのが、「なばり」という地名を史料で確認できる最初とされる。

さらに『日本書紀』には、畿内の東端を「名壘（なばり）の横河」とするという記述（孝徳天皇大化二年正月条）や、壬申の乱に際して大海人皇子（のちの天武天皇）が「隠（なばり）の駅家」を焼いたという話（天武天皇元年六月条）、その乱の凱旋時に「名張に宿る」との記載（天武天皇元年九月条）などが見られ（「名張」との記述の初出）、標記に揺らぎは見られるが、古来より、都とのつながりの深い畿内の東端にあって交通の要衝と位置づけられていたことが伺える。

醍醐寺に伝わる『薬師寺縁起』には、天武天皇の娘であり名張を通過して伊勢に赴いたであろう実在が確認できる最初の斎王でもある大来皇女の発願で、神亀2（725）年に伊賀国名張郡夏身に天武天皇のために昌福寺が建立されたとの記事があり、現在の名張市夏見ある古代寺院跡である夏見廃寺は、出土遺物から7世紀の末から8世紀の前半に建立されたと推定されることから、この昌福寺の跡と推定されている。

奈良時代になり、東大寺の造営が始まると、大量に必要とされた材木を伐り出すために、孝謙天皇により、現在の名張市の一部は、板蠅杣（いたばえのそま）として東大寺に

寄進された。平安時代になると、東大寺は、この板蠅杣の荘園への転換を図るようになる。杣人たちは、杣の区域を越えて宇陀・名張両川以東の国衙領の田地にまで出作を行うようになっていったため、国衙側としばしば衝突を繰り返したが、11世紀半ばには、宣旨により宇陀・名張両川以西の田地における臨時雑役の免除が認められ、黒田荘が成立する。

東大寺側と国衙側との間では、これ以降も相論や衝突を繰り返されたが、承安4(1174)年、白河院序下文により、宇陀・名張両川以東も含めた不輸の権が認められ、これによって現在の名張市のおよそ3分の2の地域が、東大寺領黒田荘に組み込まれることになった(残りの3分の1ほどは伊勢神宮領)。

東大寺との信仰上の結びつきは今日まで維持されており、13世紀に始まったとされる名張市赤目町一ノ井の「伊賀一ノ井松明講」による、お水取り(修二会)で使われる松明の奉納は、今でも、高校生による参加や近鉄電車による輸送など、少しずつ形を変えながらも、途絶えることなく続いている。

なお、こうした荘園の成立・変遷の過程が分かる史料が豊富に残されているため、荘園制などの日本史研究の発展にとって、黒田荘は重要な事例となっている。

1.2 中世の名張と悪党・一揆

さて、こうして拡大した黒田荘は、東大寺を本家としながらも、黒田本荘と出作、新荘では領家が異なるなど、広域であるがゆえに複雑な支配体制となっていた。

国衙と対抗して荘園支配を貫徹するために、東大寺側は、荘園内を複数の百姓名に編制し、在地の有力者に委ねるといった体制を取らざるをえなかったが、こうした体制は、本家である東大寺にとっては、有力な在地勢力が伸長し、荘園支配への抵抗勢力に転じうるといった危うさを秘めたものであった。果たして鎌倉時代には、一部の有力な在地勢力が、武器を身にまとい東大寺に従わず年貢の横領や強盗などを行い悪党と称されるようになり、東大寺から幕府に対して、悪党追捕の訴えがしばしば出されるようになる。

14世紀初頭には、黒田荘の悪党は城郭まで構えて東大寺による荘園支配に抵抗するようになり、荘民もこれに加担するようになっていった。

さて、黒田荘の悪党のエネルギーは、やがて国人(地侍)と呼ばれる在地の小領主の成長を促した。伊賀国は、有力な守護大名や戦国大名の支配を受けず、伊賀国全域で600余り、名張市内だけでも100近くあったとされる城郭や砦に割拠した国人(地侍)たちが、相互に協力しながら自ら地域を治める、一揆と呼ばれる自治的な体制が築かれていった。

永禄12(1569)年の制定と推定される「伊賀惣国一揆掟書」では、伊賀に敵軍が侵入した場合には、17~50歳の住民も参集することなどが定められており、外敵に対しては国人(地侍)だけではなく、地域全体が一体となって立ち向かう体制となっていたことが確認できる。

天正7(1579)年に、織田信長の次男である信雄が、伊賀に攻め込んできた際には、こ

の体制が功を奏して、ゲリラ戦により信雄軍を敗走させることに成功している。しかし、天正9(1581)年に、織田勢が軍勢を整え再度侵入してくると、伊賀勢は次第に追い詰められていく。最後に残された拠点となった現在の名張市赤目町柏原にある柏原城での籠城戦ののち、伊賀勢は降伏を余儀なくされる。

その後、本能寺の変を機に伊賀の国人の残党が一時的に柏原城を奪取するなどの動きはあったものの、結局鎮圧され、伊賀の惣国一揆は解体されて、中世の自治的な体制は終焉を迎えた。

2. 名張の近世

2.1 近世名張の成立

本節では、名張市における近世(江戸時代)の都市形成と社会経済的発展について、既存史料・研究成果をもとに整理し、その歴史的特徴を明らかにすることを目的とする。名張は古代以来、伊勢と大和を結ぶ交通の要衝として発展してきたが、近世においては津藩藤堂家の支配下で計画的な町割りが実施され、城下町としてだけでなく、宿場町・商業町として独自の発展を遂げた。

慶長13(1608)年、藤堂高虎(1556~1630)が伊賀・伊勢に領地を得た。伊予国今治22万石から伊賀一国と伊勢国安濃津近辺、計22万950石への転封である。したがって、名張は近世を通じて藤堂藩の一部となっている。

それ以前の状況を確認しておくと、天正13(1585)年に大和国から筒井定次が豊臣秀吉の命によって入封している。定次は上野城(現・伊賀市)を築いたが、慶長13年には江戸幕府によって改易された。藤堂高虎の入封はこれに替わるものであった。高虎は当初伊賀国上野城に入ったが、まもなく伊勢国津城を居城とした。ただ、上野城は元和元(1615)年の一国一城令の発令ののちも破却されることなく、城代が置かれ、藤堂藩領のうち伊賀国支配の拠点となった。

名張の地には、藤堂高虎入封後、重臣梅原勝右衛門が出向させられ、その近郊を統治した。勝右衛門は、筒井定次の与力である松倉勝重が名張支配のために築瀬の高台に構えた居館に居住して、名張支配にあたった。その後、梅原の失脚により約20年上野城代の直接支配になった時期を経て、寛永13(1636)年には名張は藤堂高吉(たかよし、藤堂高虎養子、実は丹羽長秀三男)に分知され、高吉も梅原のこの居館の地を引き継ぎ、新築した(名張藤堂邸)。以降、名張の地は近世を通じて名張藤堂家の所領となっている。

こうして名張の町は、小規模ながら高吉の譜代の家臣90数名を抱える城下町となり、その家族・家臣を含めると700余名の武家人口を有した。彼らは丸之内・柳原町一帯に集住した。近世の武家は、全国的に豊臣秀吉が行った太閤検地により兵農分離が確定され、消費者となったと言われるところであるが、名張の町にもこうして700余名の消費者が生まれ、このことが名張の商業を支える一つの要因となった。

また、近世には参勤交代等にもなって街道が整備され、このことで近世後期には伊勢参宮などの旅行ブームが訪れるが、名張は初瀬街道沿いに町家が並ぶ形で整備されたため、宿場町としてもにぎわった。名張は前節でも見たとおり、古代以来、伊勢と大和を結ぶ交通の要衝であり、初瀬街道の宿場としての性格が強かった。近世の町割りは、この街道機能を最大限に活かす形で進められたと考えられる。

2.2 17～18 世紀の名張

17 世紀後半から 18 世紀にかけて、名張の町域は人口増加と経済活動の拡大に伴い拡張した。特に、名張川沿いの埋め立てによって新たな町地が造成され、榊町北側の松崎町、本町西側の瀬古手などが成立した。これにより、名張は初瀬街道に沿って帯状に広がる都市構造を形成し、宿場町から商業都市へと性格を強めていった。

このように発展していった名張の近世史において特筆すべきは、大規模な火災が頻発したことである。記録に残る主な大火として、宝永 7 (1710、あるいは宝永 8) 年の宝永大火では、名張藤堂邸のほか、武家屋敷 64 軒、本町・横町・榊町・鍛冶町・瀬古手など計 580 軒が焼失している。さらにこの火災が平尾村にも類焼し、ほぼ全戸にわたる 45 軒が焼失した(『永保記事略』)。この大火から 9 年後の享保 3 (1718) 年にも、復興した名張の町で再び大火が起こった。鍛冶町から出火し、本町 189 軒を焼失、瀬古手の上野代官屋敷も類焼した。その他の火事として大きなものは、元禄 12 (1699) 年の榊町での 53 軒焼失、延享 2 (1745) 年の松崎町での 62 軒焼失、寛延 3 (1750) 年の丈六村での 28 軒の焼失などが挙げられる。

近世日本は木造住宅ばかりで、消火施設も整っておらず、火災は至る所で起こっている。これらの火災、特に宝永の大火は名張の町の大部分を焼失させたが、名張の町はその都度再建され、町家の形式や街道沿いの町割りを維持しながら復興した。この再生力は、名張の都市史における重要な特徴であり、町人社会の結束力や経済的基盤の強さを示している。

火災から再生した名張旧町には、江戸後期から幕末にかけての町家が現存し、国登録有形文化財に指定されているものも多い。大和屋店舗、岡村家住宅主屋、小川家住宅主屋などが代表例である。これらの町家は、街道に面した間口の広い構造、木造つし二階建て、手斧痕や和釘などの伝統技法といった特徴をもち、近世の町並みを今日に伝えている。また、1948 年の航空写真でも、切妻屋根が整然と並ぶ街道景観が確認され、近世以来の町割りが長く維持されてきたことがわかる。

2.3 19 世紀の名張

初瀬街道は、伊勢と大和を結ぶ主要交通路であり、名張はその中心的宿場町として栄え

た。そして、上述のように旅籠や商家が街道沿いに集中し、町場が形成されている。また、武家の居住、そして藤堂高虎入国当時の掟「國中（伊賀国）よろず売買の儀上野町並に名張の町、阿保の町にて商売仕るべく候。右のほかわきわきにて売買かたく停止せしむるものなり」（のち寛文10〈1670〉年に島ヶ原、山田、上阿波・佐那具・上柘植が追加。）により、物資流通の拠点として商業活動が活性化し、酒造業・薬商などの地域産業が発達していく。特に酒造業は近世後期に発展し、木屋正酒造（国登録有形文化財）などの歴史的建造物が現在も残る。

街道を通じて人・物・情報が行き交い、名張は伊勢文化と大和文化が交差する地域として独自の文化を形成した。二代目歌川広重の錦絵「伊賀名張」には、黒田橋付近の街道景観が描かれ、街道沿いに軒を連ねる当時の名張の様子が伝えられている。

19世紀に入ると、名張の町人層は経済力を蓄え、地域の公共事業や文化活動に積極的に関与した。薬商の細川家などはその代表例であり、明治期の鉄道創設願にも名を連ねるなど、近代化の担い手として活躍した。このように、近世後期の名張は、商人層の台頭とともに地域社会が活性化し、近代都市への移行を準備していった。

3. 名張の近現代

3.1 近代の商業都市へ

街道の要衝として発展した名張は、近代に入って商業の街としての歩みを進めてゆく。そして戦後は桔梗が丘など大規模ニュータウンの開発によって大都市ベッドタウンとしての役割を担い、21世紀に入ってからは一転して職住近接都市の性質を強めてきた。

現在の名張市の基盤は、明治期の町村制施行に伴う合併によって形づくられた。明治22（1889）年の市制町村制により名張地域でも多くの村々が統合され、名張町、国津村、箕曲村、滝川村といった町村が成立する（名張市史編纂委員会編 2004, 106-107）。

発展を後押しする交通インフラの整備も行われ、大正11（1922）年に伊賀鉄道が開通し、さらに昭和5（1930）年には参宮急行鉄道（後の近畿日本鉄道）によって大阪上本町と直結する。交通網の整備は流通を活発にし、現在の旧町と呼ばれる市街地を中心に活気をもたらしていった。

3.2 ベッドタウン化と3つの市域分化

戦後になり、昭和29（1954）年には名張町・滝川村・箕曲村・国津村が合併して現在まで続く名張市が誕生した。高度成長期には人口の多くが農村部から都市部へと移動して都市の過密化がおこり、東京や大阪などの大都市圏では住宅供給が課題となっていた。このため大都市圏郊外にニュータウンの構想が相次いで立てられてゆく。

名張においても大阪都市圏の拡大にこたえる形で、昭和36（1961）年に当時の北田藤太郎市長によって住宅開発の方針が示され、昭和38（1963）年には近鉄により「桔梗が

丘ニュータウン」の開発構想が発表された。同年末に予約が募集された第一工区は100区画が即完売となる人気を集め、その後も順調に開発が進められて一大住宅地となっていた（名張市史編纂委員会編 2004）。桔梗が丘駅前には近鉄プラザ（後の近鉄百貨店）が開店し、名張は大都市郊外ニュータウンとしての性格を強めてゆく²。

桔梗が丘に続いて市内各地に団地が造成されてゆき、名張市の人口は昭和 50（1975）年から平成 2（1990）年の 15 年間で倍増し、平成 12（2000）年まで伸び続けた。

そしてこうした住宅開発の結果、名張市は旧市街地からなる旧町、桔梗が丘などの郊外住宅地、その外側に広がる農村部という 3 つの顔をもつ都市になっていった。

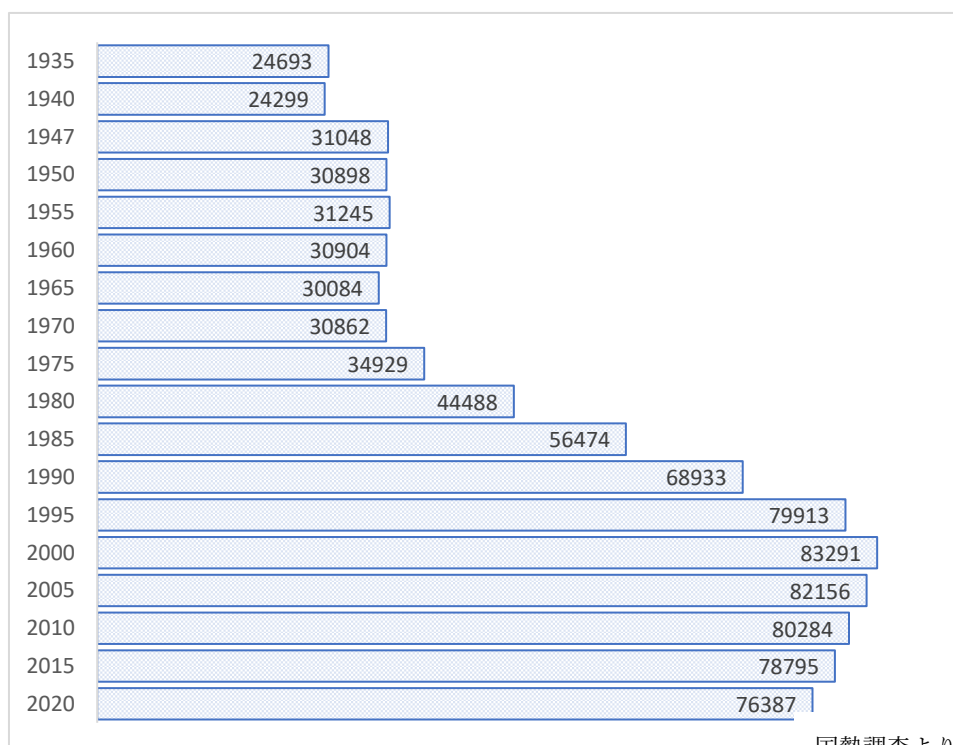


図 1 名張市の人口

3.3 工業都市としての名張

高度成長期以降にホワイトカラーの移住によって爆発的成長を遂げた名張市は、その後の政策によって職住近接型の都市へと姿を変えてきた。このとき名張市の雇用に特徴的な役割を担ってきたのは第二次産業である。

名張市では桔梗が丘の開発と同じころ、昭和 38（1963）年に工場設置促進条例を制定し、イトキン（株）名張工場の操業をみた。昭和 40（1965）年には蔵持工業団地の分譲

² なお桔梗が丘をはじめとする郊外住宅地に移住してきた人々は約 7 割が近畿圏からの移住者であり（名張市史編纂委員会編 2004）、大阪大都市圏に通勤する高学歴のサラリーマン世帯であった。現在では多くが高齢になって職業生活の一線を退いているが、この人々が名張市の活発な市民活動を担ってきたことは注目されるべきであろう。

がはじまり、後には八幡工業団地、八幡第二工業団地、民間開発による三ツ池工業団地、滝之原工業団地などの工業団地が造成された。また隣接する伊賀市でも大規模な工業団地の造成が行われ、大きな雇用を生んでいる。

現在の名張市は第二次産業従事者の比率が 34% となっており、3 分の 1 以上が第二次産業に従事している。これは全国に比べて 10 ポイント、三重県全体と比べても 2 ポイントほど高い（図 2）。名張市は製造品出荷額では 2585 億円で県内市町では第 9 位となっており、出荷額で見ると工業の印象はそれほど強くない（三重県名張市 2025）。しかし住民の従事する産業に注目すると、工業都市としての特性を備えていることがわかる。

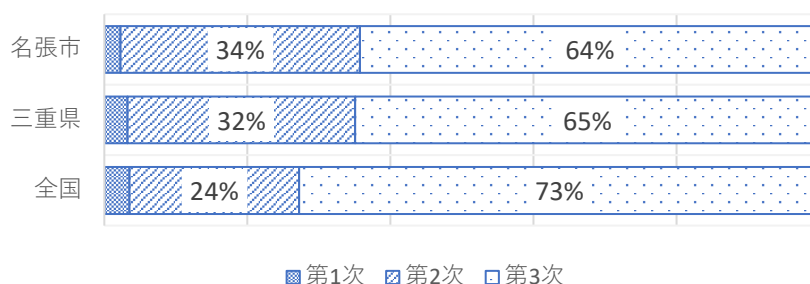


図 2 名張市の産業別従業人口

職住近接への変化は数字の上でも確認することができる（表 1）。1990 年には市外へ通勤・通学する人々の半分は大阪府に通っており、全体の 24% を占めていた。しかし 21 世紀に入ると急激に低下し、2020 年になると 7% を占めるのみとなっている。

これに対して 2000 年以降は市内に通勤通学する人々の割合が増え、2000 年の 48% から 2020 年には 63% にまで高まった。また、1990 年代から隣接する伊賀市域に通う人々も増え、現在では通勤・通学者の 8 割以上が伊賀地域内に通っている。21 世紀に入ってから名張市は大都市ベッドタウンとしての役割を急激に縮小したといえる。

	市内	伊賀市	大阪府	奈良県	その他	総数
1990 年	56%	8%	24%	7%	5%	37046
2000 年	48%	16%	22%	7%	7%	40030
2010 年	55%	18%	12%	5%	9%	42383
2020 年	63%	19%	7%	4%	8%	42360

※国勢調査より作成。2000 年以前の伊賀市は上野市・伊賀町・島ヶ原村・阿山町・大山田村・青山町を合算。

3.4 高齢化と人口減少

20 世紀の終わりごろ、平成の大合併の時期に伊賀地域も合併の機運が高まり、名張市

名張市 HP「名張市の人口」

<https://www.city.nabari.lg.jp/s008/110/020/240/010/201502053386.html>(2026.2.12 閲覧)

小林慶太郎、「市町村合併に係る住民投票をめぐる政治学的考察」『四日市大学総合政策学部論集』(4)1・2：13-24、2005年

2章 名張市の未婚化

三田 泰雅

1. 調査の目的と背景

名張商工会議所と四日市大学は、名張市の人口減少の影響を緩和することを目指して2025年度に共同研究を行い、その一環で「名張の結婚と子育てに関する市民意識調査」を実施した。本章はその調査結果をまとめたものである。

日本では少子化が進行しており、その背景には未婚化がある。このため人口減少対策を検討するうえでは、人々の結婚行動や結婚意欲、また結婚を阻む要因を明らかにすることが重要である。こうした現状を把握すれば、対策の手がかりを得ることが期待できる。

一般に未婚化の要因としては、男性雇用の不安定化や女性の社会進出が指摘されている。ことに若年女性たちのなかに経済的に自立する人が増えたことによって、結婚の経済的メリットが相対的に低下していることが背景にあると考えられている。このような傾向は全国的にみられる。

しかしながら、名張市は隣接する伊賀市とともに第二次産業従事者が多く、比較的安定した雇用環境のもとにある。そしてまた一方で、女性の就業は進んでいるものの非正規雇用の割合が高い。このため、男性が主に家計を担い、女性が補助的に収入を支える「男性稼ぎ主モデル」が成立しやすい状況にある。したがって男性の雇用不安定化を未婚化の主因とみなすことは難しい。

一方、第二次産業による雇用の安定は未婚化にとって両刃の剣としての顔も持っており、工業社会に適合的な、性別役割分業にもとづくジェンダー格差が温存されやすい側面がある。ジェンダーギャップが若年女性の流出に寄与している可能性は三重県も課題として指摘している（三重県 2023）。

かくして名張市における未婚化の背景は全国的傾向とは異なる可能性があることから、そのメカニズムを明らかにするために今回の調査が企画された。

2. 調査の方法

進行する人口減少の影響をやわらげ、結婚して子どもを産み育てやすい環境の構築をはかるため、未婚化の状況を把握することを目的として「名張の結婚と子育てに関する市民意識調査」を行った。調査は名張市の協力を得て、18歳から54歳までの男女2,700人を住民基本台帳から無作為抽出し、郵送による依頼とウェブ回答を組み合わせたPush to Web方式で行った。調査期間は2025年12月1日から31日までであり、有効回収数は655票、有効回収率は24.2%であった。

以下では、この調査結果をもとに、まず対象者の基本属性を整理し、そのうえで未婚者

の意識について検討する。

3. 対象者のプロフィール

まずは対象者がどんな人なのか、確認してみよう。本調査の回答から得られた対象者のプロフィールについて、性別、年齢、学歴、職業、家計、居住などの面から検討する。

性別では女性が多い。男性が34.8%に対して女性は65.1%と、回答者は女性に偏っている。結果の解釈にあたっては、この性比に注意する必要がある。

年齢についてみてみると、年齢が高いほど回収数が多くなっており40歳以上で全体の4割近くにのぼる。婚姻状態については、既婚者が67.6%と最も多い一方、23.7%が未婚であり、未婚化の進展をうかがわせる。

学歴は、高等学校が34.1%、大学・大学院が31.2%となっている。本人の雇用形態は、正社員・正職員が46.5%、パート・アルバイトなどが27.4%であった。

表 1 年齢分布

	度数	有効%
1 18～19歳	15	2.3
2 20～24歳	50	7.7
3 25～29歳	42	6.5
4 30～34歳	76	11.7
5 35～39歳	85	13.1
6 40～44歳	113	17.4
7 45～49歳	144	22.2
8 50～54歳	124	19.1
合計	649	100.0

表 2 性別

	度数	有効%
1 男性	226	34.8
2 女性	423	65.1
3 その他	1	0.2
合計	650	100.0

表 3 婚姻状態

	度数	有効%
1 既婚	443	67.6
2 死別	5	0.8
3 離別	52	7.9
4 未婚	155	23.7
合計	655	100.0

表 4 子どもの有無

	度数	有効%
1 あり	443	68.4
2 なし	205	31.6
合計	648	100.0

表 5 最終卒業学校

	度数	有効%
1 中学校	21	3.2
2 高等学校	222	34.1
3 専門学校	111	17.1
4 短大・高専	94	14.4
5 大学・大学院	203	31.2
合計	651	100.0

表 6 現在の仕事

	度数	有効%
1 経営者・役員	19	2.9
2 正社員・正職員（期間の定めのない雇用）	302	46.5
3 嘱託・派遣・契約社員など（期間の定めのある雇用）	43	6.6
4 パート・アルバイトなど	178	27.4
5 自営業・家族従業者・フリーランス	37	5.7
6 収入をとまなう仕事はしていない	71	10.9
合計	650	100.0

4. 若年未婚者の現状

先に見たように、約3分の2（67.6%）の人々に配偶者がいる一方で、おおよそ4分の1にあたる23.7%が未婚である。この人々が今後家族を持つのか持たないのか、また名張市へ住み続けてくれるのかどうかも、将来的な人口を左右するだろう。ここでは出生動向調査にあわせ、18～34歳の未婚者に限定して検討してみたい。

まずは結婚の意思についてみてみよう（図1）。男女とも「いずれは結婚するつもり」が約8割、「一生結婚しない」が2割であった。厚生労働省が2021年に実施した「出生動向基本調査」でも、結婚意欲あり（いずれ結婚するつもり）の人の割合は80%台前半となっていた。全国と比較したとき、結婚意欲に有意差はみられない。

恋人の有無（図2）については、29%の男性は現在恋人がいるものの、残る7割のうち半分は恋人がいたことがない。おおむね3人に1人は恋人がいたことがない計算になる。女性になるとさらにこの傾向が強まり、現在恋人がいる女性は未婚女性の2割程度だが、一度も恋人がいたことがない女性も4割を超えている。交際について二極化の傾向があらわれている。なお男女とも、全国データとの間に統計的な有意差はみられなかった。

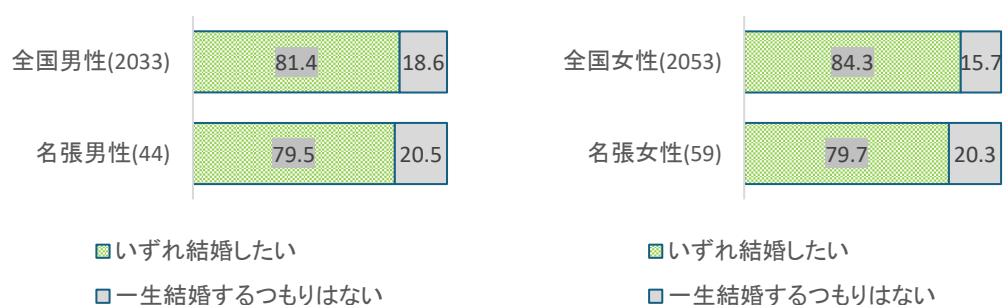


図3 結婚意欲

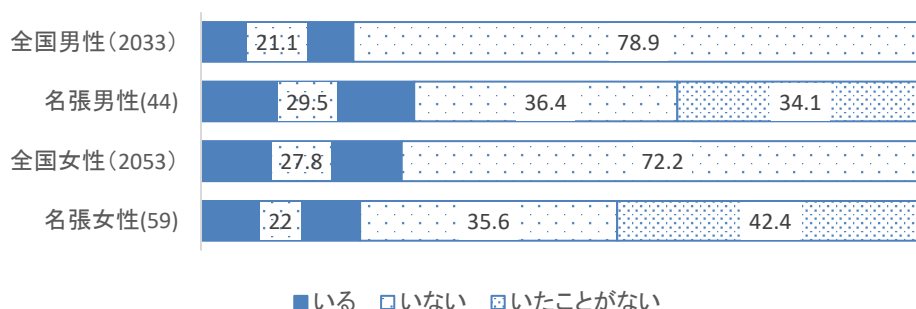


図4 恋人の有無³

³ 全国男性・全国女性の「いる」は「婚約者がいる」と「恋人として交際している異性がいる」の合算。また「以前はいたが、今はいない」のカテゴリーは名張にのみみずねている。

続いて「交際相手にもとめるもの」をたずねた結果を図3に示した。圧倒的的支持を集める「人柄」をのぞくと、「家事・育児に対する能力や姿勢」への関心が高く、「自分の仕事に対する理解と協力」がこれにつづく。他方、学歴や職業などの社会経済的属性にはあまり関心が払われておらず、経済力もどちらかといえばこの2つに近い傾向を示す。

家事や育児を分担できる相手かどうか、また、自分の仕事に対しても理解があるかどうかを重視されていることがわかる。仕事と家庭生活がトレードオフにならないよう、家事や育児をシェアできることが、交際相手を選ぶ際に重要な観点になっている。

経済力の重視が弱まり、家事や育児の能力に関心が高まる傾向は全国調査でも確認されている（厚生労働省 2023）。今回の回答者に女性が多かったことを考えると、女性の意見が強く反映された結果になっていると思われる。「経済力」への関心が「共通の趣味」よりも低いというところに、共働き時代の意識を垣間見ることができる。

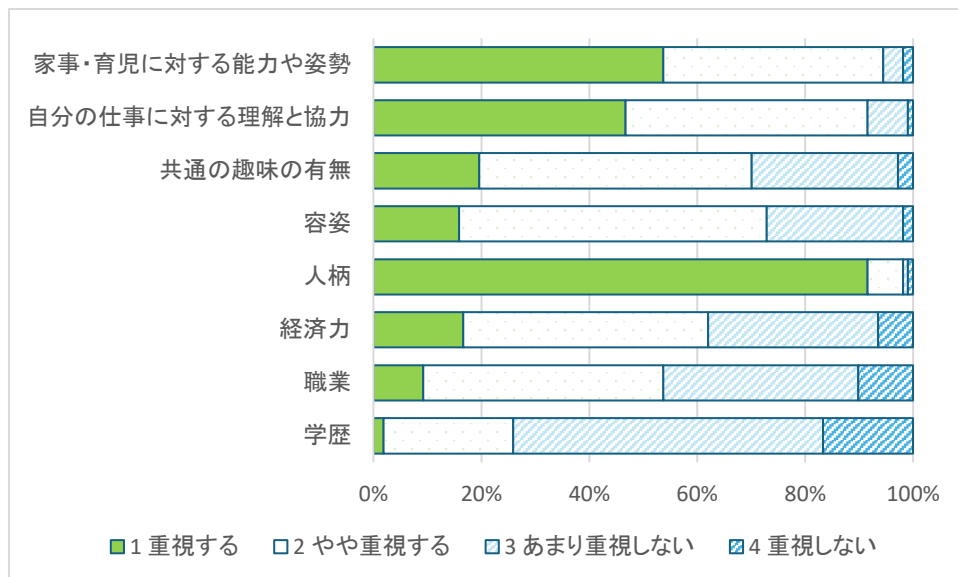


図5 交際相手に求めるもの(n=108)

最後に、女性の望ましいライフコースについて、男性と女性それぞれにたずねた結果を全国調査と比較してみよう⁴。

男女とも「結婚し、子どもを持つが、仕事を続ける」または「結婚・出産後に退職し、子育て後に再び仕事を持つ」という、共働き型のライフコースが望ましいとする人が多か

⁴ 全国調査では、女性に対しては「自分の理想とするライフコース」、男性に対しては「自分のパートナーに望むライフコース」としてたずねており、パーソナルな問いかたをしている。名張調査では男女ともにインパーソナルな「女性の望ましいライフコース」としてたずねており、解釈には注意が必要である。

った。逆に「結婚せず、仕事を続ける」「結婚するが子どもをもたず、仕事を続ける」は持たず、仕事を続ける」などの非婚型や、結婚して退職した後は仕事を持たない専業主婦型などは、男女とも全国に比べて支持が低い。この傾向は、男女とも統計的に有意であった。名張の若年未婚者には、「女性は結婚して共働き」のライフコースが支持されていると考えることができる。逆に言えば、このようなライフコースを望まない若年者は県外に流出している可能性がある。

表 7 女性の望ましいライフコース

選択肢	全国男性 (1940)	名張男性 (225)	全国女性 (1970)	名張女性 (421)
1 結婚せず、仕事を続ける	7%	1%	13%	2%
2 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける	6%	1%	8%	3%
3 結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける	41%	45%	35%	48%
4 結婚・出産後に退職し、子育て後に再び仕事を持つ	30%	36%	27%	34%
5 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない	7%	2%	14%	3%
6 その他	9%	13%	2%	11%

*** p<0.001

5. まとめ

本章では名張市の若年未婚者の意識を、全国調査と比較しながらみてきた。結婚意欲や交際状況、交際相手に求める意識の面では名張特有の事情をうかがわせる部分はあまりなかったといえる。一方、女性の望ましいライフコースに関しては、男女とも明確に「共働き型」支持が表われていた。

結婚意欲に関していえば、わずかずつ、しかし着実に、結婚を志向しない者の割合が高まっている傾向が全国でも見られるが、今回の名張市でも一生結婚するつもりはないと答えた人が2割を超えるなど、結婚意欲が低くなっている傾向が読み取れた。

交際状況については、恋人がいる割合は男性約3割、女性が約2割となり、一定の割合で交際相手がいる一方で、恋人がいたことのない男性が3割以上、女性で4割以上にのぼるなど、二極化の傾向がみられた。

交際相手に求めるものについては、人柄以外の部分では、社会的地位や経済力よりも、家事・育児の能力や、自分の仕事に対する理解を重視する人が多く、夫婦共働きに適切な相手を求める傾向が見て取れる。

名張市の未婚者に特徴的だったのは、女性のライフコースに対するイメージであった。

全国調査と比較して、専業主婦や、非婚のライフコースに対する支持が低く、結婚して共働きするライフコースが望ましいとする割合が男女ともに高い。

この点に注目すれば、名張の若年未婚者は決して「結婚離れ」しているわけではなく、むしろ共働きが可能な状況であれば結婚に前向きだと解釈することもできるだろう。

今回は調査結果の一部を紹介するにとどまったが、実効的な支援策の立案に向けて、さらに詳細な分析を進める必要がある。

文献

厚生労働省、『現代日本の結婚と出産―第16回出生動向基本調査（独身者調査ならびに夫婦調査）報告書』2023年

三重県、『三重県人口減少対策方針』、2023年

3章 教育と子育て

小西 琴絵（第1節、まとめ）

浅井 雅（第2節）

松本 彩月（研究協力）

1. 高校生の居留意向にみる子育て支援環境の評価

1.1 調査概要と分析の視点

本節では、2023年度および2024年度に名張市の高校生を対象として実施された住民意識調査の集計結果を、本稿の分析対象として用いる。本調査は、名張市内の高等学校に在籍する生徒を対象に、将来の居留意向、地域に対する評価、ならびに居住継続および転出に関する理由等を把握することを目的として実施されたものである。

近年、人口減少や若年層の地域外流出が進行する中で、地域における若者の定住や回帰の可能性をどのように捉えるかは、重要な政策的・研究的課題となっている。しかしながら、これまでの多くの調査や研究は、すでに進学・就職・結婚といったライフイベントを経験した成人を主な対象としており、それ以前の段階にある若年層、とりわけ高校生が地域をどのように認識しているのかについては、十分に検討されてきたとは言い難い。

本調査の特徴は、現在の居住地選択を行う主体ではなく、進学・就職といったライフステージの移行期を目前に控えた高校生を対象としている点にある。高校生は、現時点では居住地を主体的に選択する立場にはないものの、将来の進路選択や生活設計を具体的に考え始める時期にあり、その過程で地域に対する評価やイメージが形成されつつある段階に位置している。したがって、高校生を対象とした調査は、将来の地域選択に先行する認識や態度を把握するうえで、重要な示唆を与えると考えられる。

本節において扱う居留意向は、現時点での定住行動や移住行動を直接的に示すものではない。むしろそれは、将来像として構想された地域評価、すなわち「将来、この地域で暮らすことをどのように想像しているか」を反映した指標として解釈されるべきものである。本節では、この点を分析上の前提として位置づけたうえで、結果の整理と考察を行う。

1.2 継続居留意向及びその理由に関する年度比較

2023年度および2024年度の調査結果を比較すると、「今後も名張市内に住み続けたい、または市内での居住を志向している」と回答した高校生の割合には、顕著な年度差は認められなかった。具体的には、「ずっと住み続けたい」「当分の間住み続けたい」「名張市内の別の地区に移りたい」を合わせた市内志向の割合は、2023年度では66.6%、2024年度では61.5%であり、いずれの年度においてもおおむね6割前後で推移していた。

この結果は、高校生の段階において形成されている名張市に対する居住意向が、少なくとも短期的には大きく変動していないことを示唆している。もっとも、この安定性は、高校生が将来の居住地をすでに確定的に想定していることを意味するものではない。むしろ、高校生が現在の生活経験や周囲の環境をもとに抱いている地域への好意的評価や安心感が、将来像としての居住意向に反映されている可能性が高いと考えられる。

すなわち、本調査における市内志向は、「将来も必ずこの地域に住む」という行動意向というよりも、「少なくとも現時点では名張市内での生活を選択肢として排除していない」「名張市内で暮らす将来を肯定的に捉えている」といった、地域に対する基本的な態度や評価を示す指標として理解することが適切である。

次に、名張市に住み続けたい理由に着目すると、高校生から多く挙げられたのは、「自然が豊かで生活環境が良い」「日常生活に便利である」といった、日常生活の質に関わる項目であった。これらの項目を選択した割合は、2023年度ではそれぞれ 34.1%、23.0%、2024年度では 37.3%、29.8% であり、いずれの年度においても上位に位置していた。

また、名張市の住み心地に関する設問においては、「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と回答した割合が、2023年度で 81.1%、2024年度で 81.7% と、両年度ともに高い水準を示していた。これらの結果は、高校生自身が日々の生活を通じて直接的に知覚している生活環境が、名張市に対する肯定的な評価を下支えしていることを示している。さらに、2024年度調査では、「子育てしやすい」「子どもにとって良い環境である」といった項目を評価する回答が一定数みられた。高校生は子育ての直接的当事者ではないものの、将来の生活設計を想定する中で、家庭形成や次世代育成を含む生活全体の見通しを地域評価に組み込んでいる可能性がある。

以上の結果は、高校生の地域認識が、現在の生活経験に基づく評価にとどまらず、将来のライフステージを見据えた視点をすでに内包していることを示しており、名張市に対する地域評価が時間的に拡張された形で形成されていることを示唆している。

1.3 転出意向及びその理由に関する年度比較

一方、名張市外への転出を考える理由としては、両年度を通じて、「働く場所が少ないから（市外の通勤圏を含む）」といった、就労機会に関する項目が上位に位置していた。具体的には、同項目を選択した割合は、2023年度で 25.0%、2024年度で 23.9% であり、年度を超えて一定の割合で挙げられていた。

これらの理由は、高校生自身が現時点では就労経験を有していない段階にあるにもかかわらず、将来の自立や生活維持を見据えた現実的制約として認識されている点に特徴がある。すなわち、「働く場所が少ない」という認識は、単に雇用機会の多寡にとどまらず、将来的な収入の見通しや生活基盤の形成可能性を含めた評価として理解することができる。

高校生は、進学や就職を契機として地域外へ移動する可能性を、現実的な選択肢として意識し始める時期にある。その過程において、地域内における就労機会の状況や、将来の生活の見通しについて、断片的ながらも情報を収集し、評価を行っていると考えられる。本調査において、就労機会に関する不安が一貫して転出理由として挙げられていることは、地域における将来展望が、すでに高校生の段階で意識化されていることを示唆している。加えて、「子育てや教育環境に不安があるから」といった理由を挙げた割合は、2023年度では2.3%、2024年度では2.5%と高い水準ではないものの、2024年度において相対的に増加する傾向がみられた。高校生は、まさに進路選択の局面に位置しており、進学先の選択肢や教育環境の充実度が、将来の可能性を左右する重要な要素として認識されやすい段階にある。この点から、教育・進学環境に対する評価が、地域評価全体に一定の影響を及ぼしている可能性が考えられる。

以上の結果を踏まえると、高校生にとって名張市外への転出意向は、単なる地域への否定的評価に基づくものというよりも、進学・就職といったライフステージの移行に伴う将来展望の中で形成されている可能性が高いといえる。

1.4 アンケート結果から得られる考察

以上の分析結果を総合すると、高校生による名張市の地域評価には、少なくとも二つの側面が確認できる。第一は、自然環境や住み心地といった、現在の生活経験に基づく肯定的評価である。第二は、教育や就労といった将来の節目における選択可能性に対する、潜在的な制約認識である。

このような二重構造は、青年期におけるキャリア発達を、職業選択に限定せず、生活全体の構想過程として捉える立場とも整合的である。三國(2021)は、青年期のキャリア発達において、地域との関わりが将来展望の形成に影響を及ぼすことを指摘しており、地域が「今を生きる場」であると同時に、「将来を見据える文脈」として機能する可能性を示している。本調査の結果は、こうした理論的整理が、高校生という段階においても妥当であることを示唆している。

また、高校生は現在の生活環境を肯定的に評価する一方で、進学や就職を見据えた将来の選択可能性についても意識し始める時期にある。この点については、地域社会や学校環境が児童生徒のキャリア発達に影響を及ぼすとする川島(2023)の指摘とも関連づけて理解することができる。川島は、地域環境が、子どもが将来をどのように現実的に想像できるかという点に影響を与えることを示しており、本調査において教育・就労環境への不安が転出理由として挙げられていた点は、こうした議論と重なり合う。

以上を踏まえると、高校生にとっての名張市に対する地域評価は、現在の生活満足に基づく肯定的側面と、将来の選択可能性を見据えた制約認識という二つの時間軸にまたがって構成されていると考えられる。今後は、生活環境の充実に加え、高校生が将来にわた

って地域内での生活を現実的に構想できるよう、教育・就労・学習の連続性を地域としてどのように提示していくかが、重要な検討課題となるであろう。

2. 名張市の子育て支援の現状

2.1 子育て環境と課題

前節で、名張市の高校生を対象として実施された住民意識調査の 2024 年度結果では、名張市に住み続けたい理由として「子育てしやすい」「子どもにとって良い環境である」といった項目を評価する回答が一定数みられたことを指摘したが、本節では実際の子育て支援について見ていく。

名張市の子育て支援に関する研究を行うチームのうち、松本と浅井は、2025 年 10 月 17 日に名張市福祉子ども部健康・子育て支援室を訪れた。そこで市から我々に共有された情報は、概ね高校生の意識（「子育てしやすい」「子どもにとって良い環境である」）に沿うものであった。この話を始める前に名張市の子育て環境を概観しておく。

名張市は、全国の多くの中山間地域と同様に、深刻な人口減少と少子高齢化に直面している。合計特殊出生率は 1.2（2023 年）と県平均と比較すると低いが、全国平均と同じ水準にあり、少子化が進んでいる。さらに 2025 年 1 月には、名張市内において出産の取り扱いができる産婦人科が無くなった。妊産婦は、隣接する伊賀市をはじめ三重県内外の分娩取扱医療機関に分娩先を求めている。一方で市内には小児科が 4 か所あり、子どもの医療アクセスは一定程度確保されているものの、人口規模の差（名張市人口約 7.3 万人に対し伊賀市約 8.3 万人）を踏まえると、周産期医療体制の脆弱さは大きな課題である。

また、1960 年代以降ベットタウンとして急成長した名張市は、現在では高齢化や人口減少が進む中、社会保障費の増大や公共施設の更新、過去の債務返済などが重くのしかかり、厳しい財政状況に陥っている。（朝日新聞 2025.11.21、<https://www.asahi.com/articles/ASTCN4GNMTCNONFB007M.html>、最終閲覧 2026.2.10）。名張市はこのような財源難を背景に、地域住民が主体となって支え合う「住民自治の推進」を掲げており、その一環として子育て支援分野でも地域資源を活かした支援体制の構築が進められてきた。本節では、名張市の子育て支援事業の中心となる「ネウボラ事業」と「まちの保健室（チャイルドパートナー）」を軸に、現状と課題を整理する。

2.2 ネウボラの概要と特徴

名張市では子育て支援の中核として「名張版ネウボラ」を推進している。名張版ネウボラは、フィンランドの先進的な子育て支援制度「ネウボラ」を参考にしつつ、名張市が進めてきた地域づくりの基盤である「まちの保健室」等の体制を活用し、妊娠期から出産、育児期に至るまでを切れ目なく包括的に支援する仕組みとして 2014 年度に開始された。

従来、母子保健や子育て支援の情報・相談窓口は制度や場面ごとに分かれがちであり、支援が必要な家庭ほどつながりにくいといった課題があったことから、地域に身近な拠点での相談・対応と関係機関の連携により、早期把握と継続支援につなげることを目的として整備された。全国的にも 2000 年代に入ると、地域社会のつながりが希薄化し、身近に子育ての悩みを相談できる相手がいない「子育ての孤立化」が新たな社会問題として浮上した。2002 年の「少子化対策プラスワン」では、「地域における子育て支援」が 4 つの柱の一つに掲げられている。

母子保健に係わる支援では、母子手帳交付時の面談を起点に、妊娠 8 ヶ月時のアンケートや出生後 2 週間頃の全戸への電話相談など、妊娠期から産後にかけて複数のタイミングで状況とニーズ確認に努めている。これにより、支援が必要な家庭を早期に把握し、関係機関と連携しながら適切な支援につなげられるよう、継続的に見守る仕組みを整えている。

ネウボラの実践拠点として、名張市では 15 の小学校区それぞれに「まちの保健室」を設置し、各拠点にチャイルドパートナー（保健室職員）が常駐している。チャイルドパートナーは、来所者にとって最も身近な「はじめの窓口」として、日常のちょっとした困りごとや不安を受け止め、状況を整理しながら必要な支援につなぐ役割を担う。このチャイルドパートナーと市の専門職である母子保健コーディネーター等が連携し、必要に応じて保健・医療・福祉・子育て支援機関へ円滑につなげる体制が整えられている。具体的には、チャイルドパートナーが日々の来所における相談を受け止めて初期対応を行い、専門的な助言や継続支援、リスクの見立てが必要な場合は母子保健コーディネーター等と情報共有し、支援方針を確認しながら対応する。こうした連携により、「地域の身近さ」と「専門性」の両方を確保している。また、仕組み面では、まちの保健室で紙おむつを捨てるための指定ゴミ袋を無料で受け取れるなど、住民が生活動線の中で立ち寄れる仕掛けを整備し、いわゆる“ついで”の来所を相談機会につなげている。

産後ケア事業としては、宿泊型及びデイサービス型事業が提供されている。宿泊型は伊賀市及び津市の医療機関に委託されている。デイサービス型は市内 1 か所、行政直営で実施されており、助産師と看護師の医療専門職 2 人体制としている。きょうだい児の受け入れについては不可の場合が多く見られるが、名張市では託児を実施することにより、デイサービス型をより利用しやすい環境として整備している。産後ケア事業の利用は 7 回までとしているが、多胎児家庭はさらにデイサービス利用が 7 回分追加される。

2.3 地域資源を活かした子育て支援体制

「名張版ネウボラ」を核としつつ、市は多様な子育て支援策を展開している。

経済的支援としては、国の制度である「妊婦のための支援給付事業」（妊娠時・出産後で計 10 万円相当）に加え、中学校 3 年生までの子ども医療費助成（保護者の所得制限あ

り)は、子育て家庭の経済的負担を直接的に軽減する重要な制度である(名張市統計データ生活ガイド.com、<https://www.seikatsu-guide.com/info/24/24208/4/>、最終閲覧2026.1.29)。

施設としての支援にはまず保育施設があげられる。名張市には保育所・認定こども園等の保育施設が25園あり、4月1日時点では待機児童は発生していない。(年度途中で待機児童が発生するケースはある。)しかし、多胎児が別々の園に配置されることはないものの、きょうだい児と多胎児が別園になるケースは存在する。病児保育も整備されているが、地域柄、祖父母の支援を活用する家庭も一定数みられる。

そして、そのほかにも予約不要で立ち寄れる施設があることは、地域で子育てを見守る基盤として重要である。子育て支援広場交流会、子育て支援員研修などを通じて、地域の子育て支援体制が網の目のようにつながっている。2017年12月には妊婦応援都市宣言を行い、2022年10月からは県内で初めて「ベビーファースト運動」に参加し、子育てサポーターの養成も進めている。しかし一方でニーズが多様化・細分化しているという実情もある。

このうち、こども支援センター「かがやき」は名張市の子育て支援の中心的施設であり、年間利用者数は2024年度でのべ16,549人にのぼる。0歳児のべ2,088人、1歳児のべ2,581人の利用があり、低年齢層の利用が特に多い。設置当初より利用者数は減少しているものの、依然として地域の重要な支援拠点である。事業内容は多岐にわたり、交流事業、親子遊び、母乳相談、専門職との連携による支援相談、一時預かり(連絡・調整)、ファミリー・サポートセンター事業の推進、子育て支援員の養成など、総合的な支援が提供されている。特に多胎児家庭の利用率は高く、出生した多胎児の半数以上が利用していると推測される。参加者の多くは、他の保護者からの紹介によって来所しており、口コミによる広がり大きい点が特徴である。

名張市の現状の多胎家庭に対する支援策では、保育利用調整基準の多胎家庭に対する加点、妊婦健康診査の追加交付、宿泊型産後ケア事業の多胎割引、名張市こども家庭支援センター「かがやき」にて「ぐりとぐらの集い 双子・三つ子ちゃん生まれ!!」の毎月1回の開催が行われている。このうち、「ぐりとぐらの集い」には2025年度上半期でのべ14組が参加し、特に0~2歳児の利用が多くなっていた。寝かしつけ、外出、育児用品等の情報交換、兄弟、協力体制等に対する気持ちの共有が行われ、多胎児育児の大変さが共有される一方で、支え合いと安心というつながりが芽生えている。

また、名張市には1,494人(2025年10月現在)の外国籍住民が暮らしており、子育て支援においても外国籍家庭への対応が重要となっている。「かがやき」では月1回の外国籍家庭向け交流会を実施しており、2025年には13組が参加した。参加者は中国、ベトナム、アメリカなど多様で、もうすでに日本の生活に慣れた家庭が多い。特に1歳児の利用が多く、育児情報の共有や交流の場として機能している。一方で、日本語に不安があり、この場に参加しない家庭をどうケアするかが課題である。

2.4 考察と今後の課題

名張市の子育て支援事業は、地域資源を最大限に活用し、住民自治を基盤とした支援体制が構築されている点が大きな強みである。特に、まちの保健室を中心とした相談体制や、産後ケアの充実、多胎児家庭への手厚い支援は高く評価できる。

一方で、以下の課題が浮かび上がる。

(1) 産科医療の不在

市内に産科がないことは、妊産婦の安心感に大きく影響する。周産期医療のあり方については、県での検討も進められており、名張市においても「名張あんしん 出産・子育て応援事業」をスタートさせている。また、これまでのネウボラ事業を拡充させることにより、妊娠期からの切れ目ない支援にも取り組んでいる。今後のさらなる展開に注目したい。

(2) 妊婦の利用について

妊婦が「かがやき」などの支援拠点を利用する割合が低く、妊娠期の孤立が懸念される。これに対して、市では「妊娠期の孤立をなくす」ための取組みを従前より進めており、引き続き妊婦向け講座や交流の強化、広報の工夫が求められる。

(3) 支援の充実による依存の懸念

多様な、細分化されたニーズに対し、支援が網羅的である一方で、全国的動向としても「子育てにおける本来の親の役割がどこに位置づけられるのか」という問いも生じている。支援の提供と自立支援のバランスをどのように取るかは、名張市においても今後の重要なテーマである。

(4) 子育て支援制度・実践の整理・可視化

支援事業を積極的に利用する家庭もある中で、事業を利用しない家庭もあり、ネウボラ事業やまちの保健室の効果測定が十分に行われているかは不明である。市民や今後市民となり得る一般向けにも現在実施されている子育て支援の制度や実践について、その成果を可視化する仕組みが求められる。

名張市の子育て支援事業は、地域の力を活かした独自性の高い取り組みが多く、特に産後ケアや多胎児支援、外国籍家庭への対応など、多様化するニーズに応える柔軟な体制が整っている。しかし、産科医療の不足や妊婦の利用、支援と自立のバランスなど、今後の改善が求められる点もある。

今後は、事業の効果測定を行いながら、地域の声を丁寧に拾い、名張市らしい子育て支援のあり方をさらに深化させていくことが期待される。

3. まとめと今後の展望

3.1 まとめ

本章では、高校生を対象とした住民意識調査の結果を通じて、名張市に対する居住意向および地域評価の特徴を明らかにするとともに、名張市における子育て支援の現状とその課題について整理を行ってきた。両節の検討からは、名張市の子育て支援環境が、制度的・実践的な側面において一定の充実をみせている一方で、その内容や意義、さらには将来像が、必ずしも将来世代にまで十分に共有されているとは言い難い状況が浮かび上がる。

第1節で示したように、高校生は名張市を自然環境や住み心地の面で肯定的に評価しており、「子育てしやすい」「子どもにとって良い環境である」といった認識も一定数確認された。これらの結果は、高校生が現在の生活経験のみに基づいて地域を評価しているのではなく、将来の家庭形成や子育てを含む生活全体を視野に入れながら、地域を捉え始めている可能性を示している。その一方で、進学や就職といった将来の転機を見据えた場合には、教育環境や就労機会に対する不安が転出理由として挙げられており、地域評価が肯定と不安の両面を併せ持つ形で構成されていることが明らかとなった。

さらに、第2節で整理した名張市の子育て支援の現状を見ると、ネウボラ事業やまちの保健室を中心とした支援体制は、妊娠期から子育て期にかけた切れ目のない支援を実現しようとする点で、地域資源を活かした特徴的な取り組みであると評価できる。また、多胎児家庭や外国籍家庭への対応など、現場レベルでは多様なニーズに応答しようとする実践が積み重ねられていることも確認された。しかしながら、こうした支援の内容や意義が、高校生にとって具体的な将来の地域像として十分に結びついているとは言い切れない。

3.2 今後に向けて

以上の分析結果を踏まえると、名張市の子育て支援環境に関する今後の課題は、支援制度そのものの拡充に加えて、それらをどのような将来像として提示していくかという点にあると考えられる。高校生は、現在の生活環境については比較的肯定的に評価する一方で、将来の進路選択や生活設計を見据えた段階では、不安や制約意識も併せ持っている。こうした状況を踏まえ、既存の子育て支援の取り組みを、将来の居住や家庭形成と結びついた文脈の中で、高校生自身の進路選択や生活設計の中で具体的に位置づけられるような情報提供が重要な検討課題となる。子育て支援を単独の施策として示すのではなく、教育環境や就労機会といった他の生活領域と連続したものとして提示することで、高校生が地域内での学びや働き方を含めた将来像を、より現実的に構想できる可能性がある。

また、市民や今後市民となり得る一般向けにも現在実施されている子育て支援の制度や実践について、その内容を整理し、理解しやすい形で可視化していくことも課題である。

以上のように、若者を中心として市民が地域との関わりを主体的に捉えていく過程において、子育て支援環境がどのように意味づけられていくのかについては、今後も引き続き検討していく必要があるだろう。

参考文献

川島 範章「持続可能な地域社会と児童生徒のキャリア発達に関する一考察」『福祉健康科学研究』第 18 号、pp.49-58、2023 年。

三國 隆子「地域との関わりが青年期のキャリア発達に及ぼす影響」『神奈川大学心理・教育研究論集』第 49 号、pp.283-293、2021 年。

4章 名張市の社会減に関する実情の整理

倉田 英司

名張市内の企業および名張市役所の職員から構成されている「人口減少特別委員会」では、自然減・社会減・外国人対応の3つの小委員会のもとで、人口減少の実情把握および人口減少対策の具体的な取組みに関して検討が行われている。

第4章では、社会減を取り上げた第2小委員会における議論の内容を踏まえ、社会減の実情を整理する。なお、本章で取り上げる「社会減」とは、進学や就職、転勤、自分の意思による引越し等の社会的な活動によって、転入と転出の差がマイナス¹⁾の状況のことを指している。ここでは、名張市の社会減の実情に関して、名張市全体また市内11地区に着目した上で、①人口動態、②社会減の要因（市民意識調査、転入・転出者アンケート結果の分析）、③社会減対策の取組み（第2小委員会委員へのアンケート結果の分析）の3点から整理を行った。

1.名張市の人口動態

1.1 転入者・転出者・社会増減数

名張市の人口動態について、1.1では1998年以降の転入者・転出者・社会増減数などに関して、名張市統計書を用いて整理した（表1）。

まず、転入者数に関しては、2024年現在では三重県内・県外ともに1998年～2024年までの転入者数平均を下回っており、どちらも最盛期の6割程度に留まっている。転入者数全体で見ても、2011年を除く2007年以降は平均を下回る状況が続いている。県内からの転入者は、伊賀市からの転入者が最も多い状況²⁾が続いており、転入超過傾向となっている。また近年10年間は600人前後で推移しているが、年ごとに差異が見られ、2016年以降は平均を下回る状況が続いている。一方、県外からの転入者は、奈良県からの転入超過傾向となっているものの、関東圏や大阪・京都など関西圏からの転入者も見られる。2000年前後には2000人以上の転入者が見られたが、2004年以降は2000人を割り込んでおり、2009年以降は1300～1700人前後で推移を続けている。

次に、転出者数に関しては、2024年現在三重県内・県外ともに1998年～2024年までの転出者数平均を下回っており、転出者数全体で見ても2014年以降は平均を下回る状況が続いている。特に2020年を除く2018年以降は2500人を下回っているなど、転出者数は減少傾向にある。一方、県内他市町への転出者は、津市や鈴鹿市、四日市市などへの転出者が多い状況が続いている。また県外への転入者は、東京圏や大阪府・京都府・愛知県への転出が多くみられ、近年では転出超過傾向となっている。

最後に、社会増減数（転入者数－転出者数）は、2011年を除き2001年以降は社会減の傾向が見られ、2018年・2019年以外はマイナス200人以上、特に2005年や2007年はマイナス500人以上となった。2018年以降はマイナス100人台の年も見られるなど、社会減の傾向は小さくなっているものの、2020年にはマイナス461人、2023年と2024年にはマイナス300人台となるなど、社会減の傾向は現在まで続いている。

全体として、1998年～2007年頃には転入増および転出増、2008年頃～2015年頃には転入減の始まりかつ転出増の終わり、2016年頃以降は転入減および転出減と、年を追うごとに移行していることが分かった。また名張市では総人口の減少は続いているものの、世帯は増加しており、社会減と合わせて自然減の影響も受けている。

1.2 名張市内 11 地区の人口（1998～2023 年）

1.2 では名張市内の人口について、1998年～2023年までの人口を名張市内 11 地区に分類³⁾した上で、1.1と同様に名張市統計書を用いて整理した（表 2）。

1998年以降の 11 地区の人口を比較すると、2003年には蔵持・薦原・比奈知・つつじが丘・箕曲・桔梗が丘地区の 6 地区で増加が見られるなど、2000年前後は市内半数の地区で人口増加が見られた。しかし、2008年は薦原・箕曲・桔梗が丘地区で増加が見られたが、他 8 地区では減少傾向となった。また 2013年以降は、薦原・つつじが丘地区で一時的な増加が見られたが、名張・桔梗が丘地区を除くほとんどの地区では減少傾向にある。名張・桔梗が丘地区では、2023年時点でも増加がみられるが、両地区とも近鉄名張駅周辺および近鉄桔梗が丘駅周辺での住宅開発による人口増加が要因と考えられる。一方、人口減少は山間地域を中心に進んでおり、国津や錦生地区では 1998年と比較して 2023年現在では人口が半数近くまで減少している。また、名張地区以外の 10 地区の 2023年時点での人口は、1998年と比較して 7～9割程度となっている。

表1 名張市の転入者数・転出者数・社会増減数（転入－転出）・総人口の一覧

	転入者数			転出者数			社会増減数 (転入－転出)	総人口
	県内	県外	合計	県内	県外	合計		
1998年	735	2762	3497	649	2480	3129	+368	84166
1999年	767	2511	3278	715	2402	3117	+161	84512
2000年	794	2568	3362	697	2496	3193	+169	84831
2001年	748	2254	3002	722	2504	3226	-224	84822
2002年	714	2083	2797	716	2303	3019	-222	84822
2003年	754	2049	2803	831	2302	3133	-330	84695
2004年	736	1965	2701	839	2236	3075	-374	84413
2005年	691	1878	2569	793	2283	3076	-507	83920
2006年	795	1767	2562	763	2224	2987	-425	83513
2007年	708	1634	2342	713	2135	2848	-506	83018
2008年	732	1717	2449	708	2010	2718	-269	82822
2009年	781	1689	2470	776	2170	2946	-476	83055
2010年	694	1681	2375	718	2047	2765	-390	82660
2011年	988	1603	2591	709	1880	2589	+2	82601
2012年	785	1594	2379	747	2033	2780	-401	82123
2013年	799	1551	2350	753	2084	2837	-487	81601
2014年	713	1443	2156	668	1901	2569	-413	81005
2015年	742	1498	2240	657	1968	2625	-385	80469
2016年	647	1533	2180	634	1872	2506	-326	79926
2017年	666	1422	2088	605	1910	2515	-427	79263
2018年	711	1607	2318	637	1800	2437	-119	78871
2019年	681	1655	2336	491	1995	2486	-150	78381
2020年	662	1405	2067	604	1924	2528	-461	77563
2021年	597	1370	1967	542	1682	2224	-257	76902
2022年	698	1462	2160	621	1739	2360	-200	76177
2023年	611	1442	2053	573	1861	2434	-381	75228
2024年	569	1545	2114	555	1864	2419	-305	74226
平均	722.9	1766.2	2489.1	682.8	2078.0	2760.8	-271.7	81318

■黒抜き：社会増減数のうち、社会増が確認された年を示している

□灰色：平均数よりも転入者数が少ない/転出者数が多い年を示している

表2 名張市内11地区の人口（1998～2023年）

	名張	蔵持	薦原	美旗	比奈知	つつじが丘	錦生	赤目	箕曲	国津	桔梗が丘
1998年	9053	11305	2126	9246	9075	10795	2256	4630	9980	1092	13228
2003年	8609	11348	2203	9109	9136	11040	2203	4452	10605	998	13401
2008年	8399	10842	2211	8642	8862	10816	1985	4108	10667	865	13536
2013年	9178	10255	2091	8200	8517	10882	1784	3904	10392	724	13318
2018年	9321	10001	2143	7796	8247	10473	1539	3585	10123	630	13182
2023年	9345	9462	2094	7665	7758	9720	1337	3286	9708	509	13203
平均	8984.2	10536	2144.7	8443	8599.2	10621	1850.7	3994.2	10246	803	13311

■黒抜き：1998年以降、5年前よりも人口増加していた年を示している

2.名張市における社会減の要因把握

2章では名張市の社会減の要因について、2・1では名張市役所が名張市民1209人から回答を得た「市民意識調査（アンケート）」の結果、2・2では同市役所が名張市に転入・転出してきた759人から回答を得た「転入出者アンケート調査」の結果を用いて、住み心地や転居希望先、住み続けたい理由・市外に移りたい理由、満足度を整理した（表3）。

2.1 名張市民へのアンケート結果

①住み心地・転居希望先

名張市民への『住み心地』に関するアンケート(表3)では、住みよい・どちらかといえば住みよいと回答した地区のうち、桔梗が丘地区が約82.5%と最も高かった。また「どちらかといえば住みよい」と答えた人は、国津地区以外の10地区で最も多かった。一方、2番目に多い回答は、名張・蔵持・錦生・箕曲・国津地区で「どちらかといえば住みにくい」となり、山間地域を中心に選ばれることが多かった。

また、二つ目のアンケートである『住み続けたいのか?』の問いに、「ずっと住み続けたい」、「当分の間住み続けたい」と回答した人は合計で、薦原地区が最も高い約90.9%、国津約83.3%、桔梗が丘約81.0%、美旗約80.8%、他7地区も約69~78%となった。一方で移りたい転居先に関しては、国津以外の10地区で名張市以外を選択する人が見られるなど、市外への転出を考えている人も確認された。

そして、年代別のアンケート(表4)では、18~29歳および30~39歳は住みにくい・市外への転出を考えている人が多く、65~74歳および75歳以上は住みやすい・住み続けたいと考える人が多いことが分かった。このように年代で意識に大きな違いが見られた。

表3 名張市内11地区の住み心地(上)と転居希望先(下)に関するアンケート結果

	名張	蔵持	薦原	美旗	比奈知	つつしが丘	錦生	赤目	箕曲	国津	桔梗が丘
住みよい	21.8%	19.6%	27.3%	27.9%	23.7%	26.0%	10.0%	33.3%	13.6%	50.0%	18.5%
どちらかといえば住みよい	52.9%	55.9%	50.0%	49.0%	51.1%	52.7%	55.0%	45.8%	61.9%	16.7%	64.0%
合計	74.8%	75.5%	77.3%	76.9%	74.8%	78.7%	65.0%	79.2%	75.5%	66.7%	82.5%
どちらかといえば住みにくい	21.8%	22.4%	22.7%	22.1%	19.1%	16.0%	35.0%	18.8%	21.1%	33.3%	13.7%
住みにくい	3.4%	2.1%	0.0%	1.0%	6.1%	5.3%	0.0%	2.1%	3.4%	0.0%	3.8%
合計	25.2%	24.5%	22.7%	23.1%	25.2%	21.3%	35.0%	20.8%	24.5%	33.3%	17.5%
ずっと住み続けたい	30.2%	37.1%	59.1%	44.2%	42.3%	46.0%	25.0%	45.8%	33.3%	41.7%	35.1%
当分の間住み続けたい	39.5%	37.1%	31.8%	36.5%	30.8%	26.0%	45.0%	31.3%	41.5%	41.7%	46.0%
合計	69.8%	74.1%	90.9%	80.8%	73.1%	72.0%	70.0%	77.1%	74.8%	83.3%	81.0%
名張市内の別の地区に移りたい	4.4%	3.5%	0.0%	1.9%	5.4%	7.3%	5.0%	4.2%	4.8%	16.7%	2.4%
市外の大都市もしくは大都市周辺	13.7%	9.1%	9.1%	8.7%	10.0%	14.7%	10.0%	10.4%	11.6%	0.0%	10.0%
市外(上記以外)へ移りたい	7.3%	10.5%	0.0%	7.7%	8.5%	4.7%	15.0%	6.3%	6.1%	0.0%	4.7%
市外に移る予定がある	4.9%	2.8%	0.0%	1.0%	3.1%	1.3%	0.0%	2.1%	2.7%	0.0%	1.9%
合計	30.2%	25.9%	9.1%	19.2%	26.9%	28.0%	30.0%	22.9%	25.2%	16.7%	19.0%

■黒抜き：最も多い回答 □灰色：2番目に多い回答

表4 年代別の住み心地(上)と転居希望先(下)に関するアンケート結果

	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~74歳	75歳~以上
住みよい	22.8%	20.4%	20.3%	18.5%	21.1%	23.9%	25.8%
どちらかといえば住みよい	50.4%	49.7%	54.9%	58.0%	55.3%	60.0%	55.2%
合計	73.2%	70.1%	75.3%	76.6%	76.4%	83.9%	81.0%
どちらかといえば住みにくい	22.0%	26.3%	19.2%	20.5%	20.3%	13.9%	16.0%
住みにくい	4.7%	3.6%	5.5%	2.9%	3.3%	2.2%	3.1%
合計	26.8%	29.9%	24.7%	23.4%	23.6%	16.1%	19.0%

	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~74歳	75歳~以上
ずっと住み続けたい	17.5%	36.7%	30.2%	33.8%	32.3%	51.1%	57.1%
当分の間住み続けたい	38.9%	36.1%	39.0%	43.6%	39.5%	34.2%	28.8%
合計	56.3%	72.9%	69.2%	77.5%	71.8%	85.3%	85.9%
名張市内の別の地区に移りたい	1.6%	4.2%	5.5%	6.9%	4.0%	3.9%	2.5%
市外の大都市もしくは大都市周辺	22.2%	12.7%	12.1%	8.3%	13.7%	6.1%	8.0%
市外(上記以外)へ移りたい	7.1%	7.2%	11.5%	6.9%	8.9%	4.3%	2.5%
市外に移る予定がある	12.7%	3.0%	1.6%	0.5%	1.6%	0.4%	1.2%
合計	43.7%	27.1%	30.8%	22.5%	28.2%	14.7%	14.1%

■黒抜き：最も多い年代 □灰色：2番目に多い年代 □下線：1・2番目に少ない年代

②住み続けたい理由・市外に移りたい理由

次に名張市に住み続けたい理由では、「自然が豊かで生活環境が良い」が全地区で最も高かった(表5)。また2番目には「地域や人に愛着がある」を選んだ地区も多く、名張地区では「日常生活に便利」が多かった。一方、名張市外へ移りたい理由に関しては、医療環境に不安、日常生活に不便が約2~3割と各地区で高く、働く場所が少ないとの声も見られた。また地区ごとには、美旗・箕曲・桔梗が丘地区では日常生活に不便、医療環境の順、名張・蔵持・比奈知・つつじが丘地区では医療環境の不安の次に働く場所または日常生活に不便となるなど、医療環境や日常生活、働く場所に関する不安が多く見られた。そして、山間地域を含む薦原・錦生・赤目・国津地区では、それぞれの地区で順位が大きく異なっており、赤目では自然が少なく生活環境が良くないが最も多く、国津では子育てや教育環境を求める声が多かった。

表5 名張市に住み続けたい理由(上)・市外に移りたい理由(下)に関するアンケート結果

	名張	蔵持	薦原	美旗	比奈知	つつじが丘	錦生	赤目	箕曲	国津	桔梗が丘
自然が豊かで生活環境が良い	29.6%	33.3%	38.5%	36.5%	32.6%	39.6%	42.3%	41.1%	36.0%	47.4%	30.7%
日常生活に便利	26.3%	19.4%	10.3%	19.9%	17.7%	14.2%	7.7%	20.5%	16.7%	0.0%	22.6%
地域や人に愛着がある	19.6%	24.9%	23.1%	24.4%	23.2%	21.7%	26.9%	20.5%	22.2%	31.6%	22.6%
	名張	蔵持	薦原	美旗	比奈知	つつじが丘	錦生	赤目	箕曲	国津	桔梗が丘
自然が少なく生活環境が良くない	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.3%	0.8%	0.0%	0.0%
日常生活に不便	21.0%	16.7%	22.2%	25.0%	22.6%	22.4%	21.4%	14.9%	22.8%	0.0%	24.1%
働く場所が少ない	16.0%	17.7%	22.2%	16.7%	16.0%	13.2%	21.4%	4.5%	16.3%	0.0%	13.6%
医療環境に不安	22.5%	20.8%	22.2%	22.6%	23.6%	23.7%	28.6%	13.4%	21.1%	0.0%	23.5%
子育てや教育環境に不安	11.5%	11.5%	11.1%	3.6%	9.4%	8.6%	0.0%	4.5%	8.1%	100.0%	9.9%
福祉施設やサービスが不十分	6.0%	6.3%	0.0%	7.1%	12.3%	9.9%	21.4%	3.0%	8.1%	0.0%	12.3%

■黒抜き：最も多い回答 □灰色：2番目に多い回答

2.2 転入者・転出者へのアンケート結果

次に、名張市に転入・転出してきた人を対象に実施し、759人が回答した名張市の満足度に関するアンケート結果を整理した(表6)。

最初に転入者では、名張市での居住に関する評価として、自然環境への満足と回答した人が最も多く、回答者の半数以上が満足していた。2番目以降では、買い物などの日常生活や大阪・名古屋へのアクセスの良さ、居住環境と答えた人が約3～4割であった。しかし、子育て環境、福祉施設、医療施設、地域活動などに満足している人は1割に満たなかった。一方、不満足と答えた割合は、買い物などの日常生活で半数近くと最も多く、市内の交通の便の悪さを約4割、大阪・名古屋へのアクセス、医療施設やサービスの充実も約3割に至るなど、満足の意見が多かった項目であっても、不満足の意見が多く見られるものがあった。

次に転出者では、名張市での居住に関する評価として、転入者と同じく自然環境を選ぶ人が7割を超えているが、転入者とは異なり居住環境を半数以上が満足している。また、大阪・名古屋へのアクセスは転入者と同じく4割台が満足しているが、買い物などの日常生活や市内交通の便は転入者よりも満足は低かった。一方、不満足では、市内交通の便の悪さを約7割が挙げており、買い物などの日常生活、医療施設やサービスに関しても約4～5割が満足していなかった。加えて、大阪・名古屋へのアクセス、公共施設、福祉施設への不満足も約2～3割と高い傾向にあり、転入者の不満足と共通する項目も見られた。

以上の分析から、転入者・転出者はどちらも自然環境に関しては満足度が最も高く、買い物などへの日常生活、大阪・名古屋へのアクセス、居住環境への満足度は比較的高かった。一方、転入者・転出者ともに、買い物などの日常生活への不満足は高く、市内交通の便も不満足が高い傾向にあることが分かった。このように、転出者・転入者ともに不満足している項目があり、これらは社会減の要因の一つと考えられる。

表6 転入者・転出者へのアンケート結果

転出者	満足	不満足	転入者	満足	不満足
自然環境	74.1%	1.9%	自然環境	51.8%	2.9%
居住環境	54.1%	7.4%	買い物などの日常生活	42.9%	49.5%
大阪・名古屋へのアクセス	45.5%	27.8%	大阪・名古屋へのアクセス	41.2%	31.1%
買い物などの日常生活	33.1%	48.1%	居住環境	35.2%	16.5%
市内交通の便	11.4%	68.5%	市内交通の便	14.0%	44.7%
子育て環境	10.3%	3.7%	子育て環境	9.0%	18.4%
教育環境	7.9%	13.0%	福祉施設やサービス	6.3%	18.4%
医療施設やサービス	6.9%	46.3%	医療施設やサービス	6.3%	31.1%
地域活動	6.6%	16.7%	地域活動	5.0%	8.7%
公共施設	3.1%	25.9%	その他	4.0%	30.1%
その他	2.4%	22.2%	公共施設	3.7%	19.4%
福祉施設やサービス	1.7%	29.6%	教育環境	1.3%	9.7%
無回答	1.4%	3.7%	無回答	1.0%	1.0%

■黒抜き：最も多い回答 □灰色：2番目に多い回答

3.名張市内の企業および名張市役所による社会減対策の取り組み

最後に、人口減少特別委員会・第2小委員会を構成する名張市内の企業および名張市役所に属している委員を対象として、人口減少による影響および社会減対策の取り組みに関するアンケートを実施し、その内容を整理した。アンケートでは、主に①社会減を含む人口減少による影響、②現在実施している社会減対策の取組み、③今後取組もうと考えている社会減対策について質問し、結果は名張市実施の各アンケートを参考に分類を行った。

アンケートの結果、委員からは働く場所、子育て・教育環境、空き家・空き地などに関して、現在まで実施の取組みと今後の展望が多く示されていた。また、創業を念頭とした移住定住チャレンジ、情報発信（PR動画）の実施を行っている事例もみられた。合わせて、これらの取組みの積極的な発信に関する意見もあり、9月実施の同小委員会でも「名張の強み・PR」に関する議論が行われるなど、現在までの社会減に向けた各企業や行政の取組みを、名張市内・外に積極的に発信するための新たな取組みの検討を求める声も見られた。

表7 人口減少の影響および社会減対策の取り組みに関するアンケート結果

	①人口減少による影響	②現在までの社会減対策の取組み	③今後、必要また取組もうとしている社会減対策
地域コミュニティ	地域コミュニティ維持困難、衰退		コミュニティ形成支援
働く場所	労働力不足、担い手不足、事業継承	給与UP、過重労働防止、働きやすい環境づくり（女性向けなど）、企業説明会、事業継承相談会、シニア向け就職相談会、就職情報の告知、福利厚生の実施	働きやすい環境づくり、就労支援（若者など）、年収UP、労働環境の改善、技術力を活かした新しい仕事の創出
子育て・教育環境	学生・生徒・児童数の減少、学校をめぐる活動の衰退、廃校	小学生の地域教育、中高大生のジュニアリーダーの育成、世代間交流、子育て支援、高等教育機関としての教育サービス、地域との連携事業	小学生の地域教育、子育て支援、子育てインフラ、「なばり学」の拡充、若者対象の交流イベント、卒業後も名張と関わる仕組み、地域と関わるカリキュラム、PBLのまちなか展開
行政サービス	行政サービス水準の維持		
空き家・空き地	不動産流通の減少、空き地・空き家の増加	空き家・不動産相談会、移住体験、住宅リノベーションへの補助、空き家バンク、オンライン移住相談、移住体験ツアー、コンシェルジュによる日帰りご案内	空き家販売促進、移住体験、空き家改修時の補助制度、宿泊補助、空き家管理
経済	経済活動の衰退、地域経済の危機	移住定住チャレンジ（創業）	
魅力発信		情報発信（PR動画など）	情報発信、観光客へのおもてなし強化

4.まとめ

この章では、名張市における社会減の実情に関して、①転入者数・転出者数・社会増減数・総人口・市内11地区の人口など人口動態、②名張市実施の市民意識調査および転入出者アンケート調査結果の分析による社会減の要因把握、③人口減少特別委員会第2小委員会を構成する各委員へのアンケートにより人口減の影響と社会減対策の取り組み内容などを把握することで、名張市の社会減対策のための基礎的な情報を整理した。今後も、市民などを対象としたアンケートの実施、社会減対策の具体的な取り組みの実施および効果検証など、社会減に関する調査を継続して行う予定である。

補注

- 1)東京都の統計『人口の動き：毎年』では利用上の注意として、同記述がなされている。また他道府県の多くの統計データにおいても同様の記述が示されている。
- 2)名張市の『第2期 名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略 [令和5年度の取組]』の中では、名張市内への三重県内および県外の転入・転出者に関する記述が示されている。
- 3)名張市総合計画の中では、『地域づくり単位で「地域ビジョン」を策定し、地域の特性に応じた住民主体のまちづくりを進めていること』が示されている。また、名張市空家等対策計画では、空家等利活用促進地域を指定しており『市内に存在する「既存市街地」、「農村・山間集落」、「住宅開発地」という3つの異なる住宅地タイプ』を踏まえた取組の検討及び実施を行うと記述されている。このように、同じ名張市であっても地区別に社会減の実情および地域計画などは大きく異なることから、名張市統計書に基づき市内11地区で分類を行った。

参考文献

- 名張市(2009~2023)「名張市統計書」
名張市(2016)「名張市転入出者アンケート 調査結果報告書」
名張市(2024)「名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和5年度の取組」
名張市(2025)「名張市総合計画「なばり新時代戦略」にかかる市民意識調査(アンケート)結果」

5章 産官学の連携：政策助言システムの観点から

吉川 和挟

1. はじめに

地方自治体が抱える現代的な問題は複雑であり、一つの機関だけでの対処には限界がある。ゆえに、地域の問題解決のためには産業、行政、学術が互いに連携し、各アクターが有する知識・資源を交換し合い、よりよい問題解決のための提言を作り出す必要がある。

1.1 関心と目的

本章は上記のような関心のもと、名張市に設立された「人口減少対策特別委員会」を産業・行政・大学の連携（産官学連携）とみなしたうえで、本委員会の体制・運営上の特徴と課題を明らかにすることを目的とする。というのも、産官学連携・域学連携は「連携していること」自体が評価され、その連携がもたらす「連携のガバナンスや提言・助言の質」については十分に検証されない傾向にあるからである。

本章では、本学が関与する名張市の人口減少対策特別委員会を対象として、OECD（2017）の「政策助言システム」の観点から、産官学連携の運用上の特徴と課題を整理する。

1.2 構成

本章は以下のような構成をとる。

2 節では産官学連携を分析する視点としての「政策助言システム」について説明する。その後、多機関が連携して政策提言を導出するための組織ネットワーク・ガバナンス体（政策助言システム）を評価する際の評価軸として適応性、透明性、自律性、包括性、有効性の5軸を導出する。

3 節では本学が関与する産官学連携の事例として、名張市に設立された「人口減少対策特別委員会（以下、「名張委員会」）」の概要を説明する。

続く4 節・5 節では、名張委員会を評価し、名張委員会の特徴と今後の課題を指摘する。

2. 分析視点：政策助言システムの理論枠組み

本節では、産官学連携の体制とその機能を理解するための分析枠組みとして「政策助言システム（Policy Advisory System）」について簡単に説明し、産官学連携を評価する際の評価軸として適応性、透明性、自律性、包括性、有効性の5軸を導出する。

2.1 「政策助言システム」とは何か

まず政策助言システムの概要について簡単に説明する。政策助言システムとは、特定の政策がいかに形作られるかを記述する際に、単一の専門家や官僚、研究機関などの個々の政策分析者（あるいは組織）ではなく「相互に連携する助言者および組織の集合体」に着目する分析枠組みである（Halligan 1995）。

本章では、名張委員会を名張商工会議所、所属各企業、名張市役所、四日市大学といった複数組織が連携して、名張市の人口減少問題解決への助言・提言をアウトプットするための一つの助言システムとして理解する。また、紙幅の制限があるため、詳細な学術的先行研究までは立ち入らないが、分析に当たっての理論モデルとして OECD が 17 か国の政策助言制度について行った調査研究（特に政策助言システムのガバナンスに関するもの）を活用する。

2.2 評価のための分析軸

以下では名張委員会のガバナンス状況の評価軸について説明する。OECD（2017）では以下の 5 軸が導出されている（OECD 2017, pp17-20）。

図表 1 政策助言システム・ガバナンスの 5 次元

適応性 (Adaptability)	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな政策課題・変化する課題への対応能力 ・常設／臨時の諮問機関の使い分け ・横断的課題への対応可能性
透明性 (Transparency)	<ul style="list-style-type: none"> ・政策助言のプロセス、役割分担、意思決定経路が明確であること ・誰が、どの立場で、どのような知識・根拠に基づいて助言しているかが外部から把握可能であること ・助言内容と最終的な政策判断との関係が一定程度説明可能であること ・議論の過程や前提条件が、内部・外部の関係者に共有されていること
自律性 (Autonomy)	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の利害主体や政治的圧力から相対的に独立して助言できること ・課題設定、分析方法、提言内容について一定の裁量を有していること ・依頼主体（政府・行政・業界団体等）と助言主体の役割が峻別されていること ・財政的・組織的基盤が、助言内容の独立性を損なわない形で確保されていること
包括性 (Inclusiveness)	<ul style="list-style-type: none"> ・政策課題に関係する多様な主体・視点が助言プロセスに組み込まれていること ・専門家知だけでなく、実務知、当事者の経験、現場の声が反映される仕組みを持つこと ・特定の利害や声の大きい主体に議論が偏らないような構成・運営がなされていること

	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな関係者や未組織化の当事者を、柔軟に取り込む余地があること
有効性 (Effectiveness)	<ul style="list-style-type: none"> ・提供された助言や提言が、実際の政策形成・事業実施に活用されていること ・助言内容が政策担当者にとって理解可能かつ実装可能な形で提示されていること（タイムリーで、主題に沿い、政府が活用できる形式であること） ・助言が単発で終わらず、継続的な政策改善につながっていること ・成果や影響について、一定の振り返りや評価が可能であること

3. 事例の概要：本学における産官学連携の枠組み

本節では検討対象である「名張委員会」の組織体制について説明し、政策助言システムとしての検証可能性を探る。

3.1 連携の背景と目的：名張委員会の設立前

まず、名張委員会設立の背景について、本学との関係を中心に整理する。本報告書が対象とする名張委員会が正式に設立される以前、名張商工会議所と本学の間では、主として個別の相談を通じた比較的弱い連携関係が形成されてきた。

名張委員会設立に至るまでの主な経緯は、以下の図表に示す通りである（図表2）。

図表 2 「人口減少対策特別委員会」設立までの経緯

日付	内容
2024/1/12	名張商工会議所専務理事から四日市大学社会連携センターへの問い合わせ ：名張商工会議所として人口減少問題への取り組みを決定し、 取り組みへの助言・指導、及び（学生を含む）共同でのイベント実施などの依頼
2024/4/1	四日市大学内部に特定プロジェクト研究チームが設立・第1回研究会 ・出席者は大学教員11名 ・期限は2027年3月末、予算は大学独自予算
2024/4/10	名張商工会議所 会頭・専務理事、特定プロジェクト代表者 打合せ ：連携依頼の詳細のヒアリング
2024/5/20	名張商工会議所、名張市役所、特定プロジェクト代表者 打合せ（第2回研究会） □名張商工会議所：のちの「名張委員会」の構想が示され、若年女性の流出と未婚化、郊外の空き家活用と若者・外国人の住宅利用への関心 □名張市：郊外住宅地の利活用への関心 協議のもと、詳細な研究テーマを特定し、将来的に共同研究化を目指すことが確認される。

2024/6/26 ～2025/2/19	学内特定プロジェクト研究チーム第3回研究会～第6回研究会（学内者のみ）
2024/8/20 ～2024/9/15	「住み続けたい地域と働き続けたい職場に関するアンケート」実施 ：名張商工会議所、及び本学特定研究プロジェクト共同実施
2025/3/14	学内特定研究プロジェクト 「住み続けたい地域と働き続けたい職場に関するアンケート 調査報告書」発行
2025/7/8	「人口減少対策特別委員会＝名張委員会」第1回実施 ：出席者は名張商工会議所の会員企業や関係団体、名張市役所など計40名弱 本学からは特定プロジェクト研究から計4名の教員が参加

本報告書が対象とする名張委員会の正式な設立は、2025年7月8日に開催された「人口減少対策特別委員会」である。設立に至るまでの過程については、以下の三点が特に注目される。

第一に、名張商工会議所がイニシアティブを有し、本学を含む関係機関に対して主体的に働きかけを行っていた点である。人口減少問題への対応を商工会議所の重点課題として位置づけ、その解決に向けて外部の知的資源を活用しようとする姿勢が明確であった。

第二に、その働きかけを受けて本学が、大学独自の制度的基盤に基づき、予算および研究課題設定の面で一定の自律性を有する「特定研究プロジェクト」を立ち上げた点である。このことにより、本学は単なる受託的立場にとどまらず、独立した研究主体として連携に関与する体制を整えた。

第三に、名張商工会議所と本学はそれぞれ独立した組織体として活動しつつも、人口減少という課題認識を共有し、研究テーマや調査の方向性については緩やかな調整と合意形成を行ってきた点である。この段階では、連携は主として調査研究を中心としたものであり、政策提言・事業検討を明確に目的化した制度的枠組みは必ずしも形成されていなかった。

3.2 組織体制：名張委員会の設立後

2025年7月の名張委員会設立以降、本事例における産官学連携は、名張商工会議所を設置主体としつつ、政策提言と事業検討の双方を担う特別委員会と、実務的な事業検討を担う小委員会から成る多層的な組織体制として具体化した。特別委員会・各小委員会の役割分担や構成の詳細については省略するが、概要は下記図表に示すとおりである（図表3）。

図表 3 「人口減少対策特別委員会」組織図



名張委員会の中核をなす特別委員会は、名張商工会議所の会頭・専務理事をはじめ、会員企業・関係団体の代表者、四日市大学の教員、ならびに名張市役所の関係部局職員によって構成されている。とりわけ市役所からの参加者は、なばりの未来創造部、地域環境部、福祉こども部、産業部、都市整備部、教育委員会等の部長級職員が中心であり、各部局を代表する立場から委員会に参画している点に特徴がある。

特別委員会は、各小委員会における検討結果や提案を集約・整理し、名張商工会議所としての事業方針や対外的な提言・協力要請へとつなげる役割を担っている。また、部長級職員が参加していることから、委員会での議論や提案は、単なる事業実施にとどまらず、市役所内部の検討や予算措置、施策立案へと接続されうる回路を潜在的に有している。この点で特別委員会は、実務的検討を担う小委員会と、市役所という行政組織の意思決定構造との媒介的な位置に置かれているといえる。

特別委員会の下には、具体的な課題設定および事業案の検討を担う3つの小委員会が設置されている。各小委員会は、名張商工会議所の会員企業の担当者、四日市大学の教員、ならびに名張市役所の関係部局職員によって構成されており、市役所職員については主として室長級職員が参加している。小委員会は、人口減少に関わる個別テーマごとに編成され、調査の実施、現状把握、課題整理、ならびに具体的な事業案の検討といった、実務的・技術的検討を中心的な役割として担っている。

以上のように、名張委員会は特別委員会と小委員会から成る多層的な組織体制を有しており、その構造は政策助言の形成過程との関係で整理される必要がある。

3.3 名張委員会は政策助言システムか？

以下では、名張委員会が政策助言システムとして位置づけうるかを検討する。とりわけ、名張委員会が政策的な意思決定主体（名張市）に向けて実質的に政策助言を行っているか否かという点に焦点を当てる。もっとも、ここで用いる「政策助言システム」という概念は、名張委員会の当事者による自己理解をそのまま記述するものではなく、組織の構造や機能を相対化して捉えるための外在的な分析枠組みとして導入される点を、あらかじめ確認しておく。

名張委員会は、名張商工会議所を設置主体とする組織であり、その活動目的も、商工会議所としての事業実施や地域経済の活性化に主眼が置かれている。このため、形式的には、地方自治体に設置される審議会や附属機関のように、政策形成を直接の目的とする制度的な政策助言機関とは異なる。

しかしながら、特別委員会の構成および運営実態をみると、名張委員会は政府に対する政策助言と接続しうる重要な要素を備えている。特に注目されるのは、特別委員会に名張市役所の複数部局から部長級職員が参画している点である。この点は、名張委員会が単なる事業検討・実施の場にとどまらず、市役所内部の意思決定構造と接続しうる位置に置かれていることを示している。

実際に、第1回特別委員会においては、市役所幹部から、名張委員会の提言を政策や予算措置へと反映させる可能性が示されており、名張委員会における議論や提案が、市役所の予算編成という具体的な政策過程に取り込まれうることを示すものである。また、外国人施策、多文化共生、妊娠・出産・子育て支援、教育施策といった各政策分野における課題認識が示されるとともに、名張委員会の議論や調査に対する期待が表明されている。これらの発言は、名張委員会が単なる情報交換の場にとどまらず、行政が自らの政策課題を外部のアクターと共有し、知見や提案を得ようとする場として位置づけられていることを示唆している。

以上を踏まえると、名張委員会は、設置主体や形式の面では必ずしも典型的な政策助言機関とは言い難いものの、特別委員会を媒介として、市役所の政策形成・予算編成過程に接続する実質的な助言ルートを有していると評価できる。この意味で名張委員会は、商工会議所主導の産官学連携という形態をとりつつも、政策助言システムとして機能しうる要素を備えた組織体であると位置づけることができる。

4. OECD 枠組みによる評価①：制度・ガバナンス

本節では、前節までに整理した名張委員会の組織体制および政策助言システムとしての位置づけを踏まえ、OECD（2017）が提示する政策助言システムの理論枠組みに基づき、その制度・ガバナンス面の評価を行う。具体的には、政策助言システムのガバナンスを構成する主要な要素のうち、適応性・透明性・自律性の三つの観点から、名張委員会の

制度設計および運営上の特徴と課題を検討する。

名張委員会は、商工会議所を設置主体としつつ、特別委員会と小委員会からなる多層的な組織体制を有し、特別委員会を媒介としつつ、間接的にはあるが政府の政策形成過程への接続可能性を内包している。一方で、その制度的位置づけや権限関係は必ずしも明文化されておらず、政策助言システムとしての安定性や一貫性は自明ではない。本節では、こうした制度的な曖昧さと潜在的な可能性の両面に着目し、名張委員会のガバナンス構造を評価する。

4.1 適応性の観点からの評価

「適応性 (adaptability)」とは、政策助言システムが社会的課題や政策環境の変化に応じて、課題設定、参加主体、検討内容、運用方法を柔軟に調整しうる能力を指す。とりわけ、単一の制度設計に固定されるのではなく、環境変化に応じた試行錯誤を通じて助言の内容やプロセスを更新していく点が重視されている。

名張委員会は、この適応性の観点から一定の評価が可能である。第一に、名張委員会は、当初から明確に設計された恒常的組織として設立されたものではなく、名張商工会議所による問題意識の提示を起点として、段階的な取り組みを経て形成されている。このような設立過程は、人口減少という抽象度の高い課題に対し、関係主体が段階的に関与を深めながら課題の具体化を図ってきた点で、柔軟性を伴うものであったといえる。

第二に、名張委員会の構成自体が、一定の適応性を内包している点も指摘できる。特別委員会の下に複数の小委員会を設け、小委員会ごとに具体的課題や事業案を検討する構造は、人口減少問題を単一の政策領域としてではなく、労働、居住、外国人受入れ、子育て、教育といった複数の側面から扱うことを可能にしている。また、小委員会は実務者レベルの参加者によって構成されており、現場の知見や実情を反映しながら検討内容を調整できる点で、環境変化への対応余地を有している。

さらに、特別委員会に部長級の市役所職員が参画している点は、行政組織内の状況変化を比較的早期に共有しうるという意味で、名張委員会の適応性を補強する要素である。実際、第1回特別委員会においては、市長選挙に伴う骨格予算編成という制約条件を踏まえつつも、委員会からの提言を次期補正予算に反映させる可能性が示唆されており、外部環境の変化を前提とした柔軟な政策対応への期待が表明されている。

一方で、名張委員会の適応性には限界も存在する。とりわけ、検討の焦点が短期的な事業実施やイベント展開に向けられていることから、人口減少対策を中長期的な政策課題として再定義していくプロセスが制度的に担保されているとは言い難い。また、課題設定や小委員会の構成変更が、どの程度、意図的・戦略的に行われているのかについては現時点では不透明であり、適応が個別の判断や関係者の熱意に依存している側面も否定できない。

以上より、名張委員会は、設立過程および組織構造の面では一定の適応性を有している

ものの、その柔軟性が持続的・制度的に確保されているとは言い切れない段階にあると評価できる。

4.2 透明性の観点からの評価

「透明性 (transparency)」とは、政策助言システムにおける意思決定や助言形成のプロセスが明確であり、誰がどの立場で、どのような根拠に基づいて助言を行っているのかが、関係者および外部から把握可能である状態を指す。政策助言は最終的な政策決定のものではないが、その過程や前提が一定程度、可視化されていることは、助言の正当性や信頼性を担保する上で重要な要素とされる。

名張委員会は、透明性の観点からみて、一定の評価と課題の双方を併せ持つ。まず評価できる点として、名張委員会およびその下に設置された小委員会の存在や基本的な役割分担は、関係者間では比較的共有されており、特別委員会での議論が小委員会の検討成果を踏まえて行われるという大枠の構造は明確である。また、第1回特別委員会においては、名張商工会議所や市役所各部局が、自らの所掌分野に即して現状認識や課題を明示的に発言しており、商工会議所側・行政側がどのような問題意識を有しているのかについて、委員会内部では一定の可視性が確保されているといえる。

さらに、委員会設立以前の段階から、大学との共同調査や研究プロジェクトが進められ、その成果として調査報告書が作成・共有されている点も、助言の前提となる知見がブラックボックス化していないという意味で、透明性を補完する要素である。少なくとも、名張委員会における議論が、完全に非公開・非公式な関係性の中で形成されているわけではない。

一方で、名張委員会の透明性には明確な限界も存在する。第一に、特別委員会および小委員会において、どの段階で「提言」として取りまとめられるのか、その基準や手続きが明文化されていない点が挙げられる。各小委員会での検討内容が、どのようなプロセスを経て特別委員会の合意形成に至り、最終的に市役所への提言や独自の事業実施の判断に結びつくのかは、制度上必ずしも明確ではない。

第二に、名張委員会から市役所への提言と、市役所内部での政策判断・予算措置との関係が、外部からは把握しにくい構造となっている点も課題である。議事録上は、委員会からの提言を政府施策に反映させる可能性が示唆されているものの、提言がどのように政策過程に位置づけられ、どの程度考慮されたのかを事後的に検証する仕組みは現時点では確認できない。この点は、助言と政策決定の関係が不可視化されやすいという、政策助言システム一般に共通する課題を、本事例も内包していることを示している。

以上を踏まえると、名張委員会は、関係者内部における情報共有という意味では一定の透明性を有しているものの、助言形成から政策判断に至るプロセス全体が体系的に可視化されているとは言い難い。透明性が関係者間の暗黙的理解に依存している側面が強く、外部から検証可能な制度としては発展途上にあると評価できる。

4.3 自律性の観点からの評価

「自律性 (autonomy)」とは、助言の内容や方法が、短期的な政治的要請や特定組織の利害によって不当に左右されることなく、独立した専門的判断に基づいて形成される状態を指す。ここでいう自律性は、政府や特定の主体からの完全な独立を意味するものではなく、少なくとも助言テーマの設定、分析方法の選択、助言内容の取りまとめにおいて、一定の裁量と自由度が確保されていることが重要とされる。

名張委員会は、この自律性の観点からみると、制度的に脆弱な側面を有している。最大の要因は、名張委員会が名張商工会議所を設置主体とする組織であり、その主たる目的が商工会議所としての「事業」実施に置かれている点にある。このことは、委員会の活動が政策形成への助言というよりも、事業化可能性や実行性を重視する方向に引き寄せられる構造的要因となっている。

一方で、名張委員会の自律性を一定程度補完している要素として、大学の関与が挙げられる。委員会設立以前に立ち上げられた大学内の特定研究プロジェクトは、大学独自の予算と制度に基づいて運営されており、研究テーマの設定や分析手法の選択においては、商工会議所や行政から直接的な介入を受けていない。この学術的基盤は、名張委員会における議論に対し、一定の独立性をもたらしている。

しかしながら、この大学側の自律性は、名張委員会全体のガバナンス構造に制度的に組み込まれているとは言い難い。大学は委員の一構成員として参画しているに過ぎず、助言形成プロセスにおいて、どの程度の影響力や議題設定能力を有するのかは不明確である。その結果、専門的知見が、政策助言としてではなく、事業検討を補完する「参考情報」として消費される可能性も否定できない。

以上を踏まえると、名張委員会は、完全に自律性を欠いた組織ではないものの、個々の参加者の専門性や関係性に依存して部分的に確保されているにとどまり、制度的に担保されたものではない。この点は、名張委員会が政策助言システムとして成熟する上での重要な課題である。

5. OECD 枠組みによる評価②：運用・実効性面

前節では、名張委員会の制度・ガバナンス面について検討したが、政策助言システムとしての評価は、実際の運用や成果との関係を踏まえて行う必要がある。本節では、OECD (2017) の枠組みに基づき、名張委員会の運用実態に着目し、「包括性」と「有効性」の二つの観点から評価を行う。とりわけ、多様な主体の関与がどのように議論や提言に反映されているのか、またそれが政策や事業に結びつく可能性を有しているのかを検討する。

5.1 包括性の観点からの評価

「包括性 (inclusiveness)」とは、助言の形成過程において、多様な社会経済的背景や利害、視点を持つアクターが適切に関与している状態を指す。包括性は、単に参加主体の

数を増やすことを意味するのではなく、異なる立場や経験が議論に反映され、助言内容の妥当性や実装可能性を高めているかどうか重要な評価基準となる。

名張委員会は、この包括性の観点からみて、比較的多様な主体が参画する組織体制を有している。委員会には、名張商工会議所の会員企業、行政（市役所および教育委員会）、大学教員といった複数のセクターが参加しており、産業・行政・学術の視点が一定程度、交差する場が形成されている。また、小委員会を設置することで、具体的な課題について議論する仕組みが整えられている点も評価できる。

特に行政の関与については、特別委員会に部長級職員が、小委員会に室長級職員が参加するという階層的な配置がなされており、実務的視点と政策的視点の双方が持ち込まれる構造となっている。この点は、議論を現場感覚に閉じたものにせず、行政施策との接続可能性を意識した助言形成を促す要因となっている。

一方で、包括性には一定の限界も認められる。委員会の構成は、主として組織代表者や専門職により占められており、人口減少の影響を直接受ける若者、子育て世代、外国人住民といった当事者の声が、制度的に組み込まれているとは言い難い。これらの層への関心や問題意識は示されているものの、当事者参加の仕組みは、現時点では委員会の外部に委ねられている。

また、商工会議所を設置主体とする性格上、企業・経済活動に関連する視点が相対的に強く反映されやすい構造となっており、市民社会や非営利セクターの視点が十分に取込まれているかについては検討の余地がある。包括性を高めることは助言の妥当性を高める一方で、過度な利害調整が議論の焦点を曖昧にするリスクも伴うため、今後は参加主体の拡張と議論の整理の両立が課題となる。

以上より、名張委員会は、産官学という主要なセクターを網羅する点では一定の包括性を備えているものの、当事者層や市民的視点をどのように組み込むかについては、今後の運用に委ねられている部分が大きいと評価できる。

5.2 有効性の観点からの評価

「有効性 (effectiveness)」とは、助言が政府の意思決定や政策立案プロセスに対して実質的な影響を与え、かつタイムリーに提供されている状態を指す。有効な政策助言であるためには、助言内容が社会的なニーズと整合していることに加え、適切な形式とタイミングで提示され、実際の政策や事業に反映される経路が確保されている必要がある。

本事例における名張委員会は、有効性の観点からみると、一定の可能性を有しつつも、その実効性は現時点では限定的であると評価できる。特別委員会には市役所の部長級職員が参画しており、委員会での議論や提言が、市役所内部の政策検討プロセスに接続される潜在的なルートは存在している。

一方で、名張委員会において形成される助言が、どのような手続きを経て、市の政策や事業として採用・実施されるのかについては、制度的に明確化されていない。助言の提出

先、形式、タイミング、行政側の対応などが整理されていないため、提言が実際の意味決定にどの程度影響を与えたのかを検証することは困難である。

また、委員会の主たる活動が事業検討に重点を置いていることも、有効性の評価を慎重にする要因である。事業レベルでの検討は短期的な成果を生みやすい一方で、制度設計や中長期的な政策転換への影響は限定的になりやすい。名張委員会においても、人口減少という構造的課題に対して、どの程度まで政策的示唆を一般化・抽象化できているのかは、今後の成果を待つ必要がある。

以上を踏まえると、名張委員会は、行政との接点を有し、助言が政策に影響を与える潜在的可能性を備えているものの、その有効性は制度的に担保されたものではなく、現段階では発展途上にあると評価できる。今後、提言の扱いや政策反映のプロセスを明確化し、助言の成果を検証可能な形で蓄積していくことが、名張委員会の有効性を高める上で重要な課題となる。

6. まとめ：政策助言システムとしての名張委員会の特徴と課題

本節では、前節までの分析を踏まえ、名張委員会を産官学連携型の政策助言システムとして捉えた場合の特徴と課題を整理する。

第一に、名張委員会の特徴として挙げられるのは、商工会議所を設置主体としつつ、行政および大学が関与する多層的な組織構造を有している点である。特別委員会と小委員会を組み合わせた体制は、実務的検討と政策的視点を接続する可能性を内包しており、人口減少という複合的課題に対して柔軟に対応しうる組織設計となっている。また、特別委員会に市役所の部長級職員が参画している点は、委員会での議論が市役所内部の政策検討に接続される潜在的なルートを確認しているという意味で、政策助言システムとしての重要な特徴である。

第二に、産官学という主要なアクターが一堂に会することで、多様な知見や問題意識が共有される場が形成されている点も評価できる。特に大学の関与は、調査や分析に基づく知見を提供することで、議論を経験則や個別事例にとどめない役割を果たしている。このような知識の供給は、産官学連携の基盤的要素である。

一方で、課題も明らかとなった。第一の課題は、名張委員会の制度的位置づけの曖昧さである。委員会は事業検討を主目的とする組織として設置されており、政策助言を担う組織としての役割や権限、ならびに助言の提出先や取り扱いの手続きは、対内的にも、対外的にも制度的に明確化されていない。その結果、小委員会において多様で専門的な提案が生み出され、特別委員会において一定の整理・集約がなされているにもかかわらず、それらがどの段階で、どのような形式をもって、市役所の政策形成や意思決定に接続されるのかというルートが明示されていない。このため、豊富なインプットが、政策的なアウトプットとして十分に結実しにくい構造が生じている。

第二の課題は、助言内容が短期的な事業検討に収斂しやすく、自律性および有効性が中

長期的な政策形成との関係で十分に確保されていない点にある。大学による専門的知見の提供は一定の自律性を補完しているものの、委員会全体としては、設置主体である商工会議所や行政の意向から距離を保つ制度的仕組みは十分ではなく、過度に近視眼的な制約条件のみが重視される可能性がある。また、提言が個別事業に収斂する場合には、その中長期的な政策効果を検証・蓄積する視点が欠如する可能性がある。

第三に、包括性の課題として、当事者層や市民的視点の関与が制度的に組み込まれていない点が挙げられる。人口減少の影響を直接受ける若者や外国人住民などの声は、委員会外での調査やヒアリングを通じて把握されているものの、助言形成のプロセスに直接反映される仕組みは限定的である。

以上を総合すると、名張委員会は、産官学連携型の政策助言システムとしての潜在的可能性を有しながらも、その機能は未だ過渡期にあると評価できる。今後、政策助言者としての位置づけを明確化し、助言の形成・提示・評価のプロセスを整理することで、事業実施と政策形成を接続するより成熟した政策助言システムへと発展する余地がある。

補足：産官学連携における事業志向と政策志向の緊張関係

本章では、名張委員会を政策助言システムの枠組みから評価してきたが、以下、補足として事業検討と政策助言の関係について整理しておきたい。

本事例の分析を通じて浮かび上がった重要な論点の一つは、産官学連携の場において、議論が短期的・具体的な事業検討へと収斂しやすい構造的傾向である。この点は、名張委員会固有の問題というよりも、実務的成果が期待される多機関連携組織に広く共通する特徴であると考えられる。

事業志向が強まる背景には、複数の要因が存在する。第一に、事業は成果が可視化しやすく、関係主体間の合意形成を図りやすいという利点を有している。第二に、地方自治体においては、産官学の各組織ともに財政的・人的制約が大きく、政策転換を行うことが容易ではなく、既存制度の枠内で実施可能な事業提案が現実的な選択肢となりやすい。第三に、産業界の参画は、必然的に実行可能性や即効性への関心を高め、議論を抽象的な政策論から具体的な施策・事業へと導く。

しかしながら、事業志向への過度な収斂は、いくつかの問題を孕む。第一に、個別事業は、政策目的や制度構造との関係が明示されない限り、断片的な対応にとどまりやすく、構造的課題へ対処するための知見として蓄積されにくい。第二に、事業の成否が短期的指標によって評価される場合、人口動態や定住意向といった中長期的変化との因果関係が検証されないまま、次の施策が場当たりに選択される可能性がある。これは、EBPMの観点からも課題となる。

さらに重要なのは、個別事業が内包する「どのような社会的変化を意図しているのか」という前提が、必ずしも十分に言語化・共有されないまま、事業が並列的に検討・実施されていく点である。各事業はそれぞれに合理的な課題意識や実務的妥当性を有している

ものの、それらがどのような社会変化を目指すものであり、相互にどのような関係に立つのかについては、必ずしも明示的に整理されていない。この結果、事業は点として把握される一方で、複数の事業が全体としてどのような影響を及ぼしうるのかを評価する視点が欠落しやすくなる。

政策助言システムは、単なる施策提案の集積ではなく、個別の知見を統合し、政策の選択肢や方向性を再構成する機能を重視している。この点に照らすと、産官学連携においては、個々の事業を政策体系の中に位置づけ、その効果や限界を整理し、次なる政策選択へと接続する役割を担う主体が不可欠である。

本事例における名張委員会は、こうした政策助言システムへの展開可能性を内包しているものの、現時点では、その機能が明示的に制度化されているとは言い難い。今後、個別事業を通じて得られた知見を、その事業固有の成果にとどめるのではなく、自治体の政策体系の中に明示的に位置づけ、既存の政策目標・手段・評価指標との関係を再整理することによって、政策形成プロセスへと接続していく仕組みをいかに組み込むかが、産官学連携型の政策助言システムの成熟度を左右する重要な論点となる。

事業志向と政策志向の緊張関係は、産官学連携に内在する不可避的な構造であり、そのいずれかを選択する問題ではない。むしろ、両者を往復しながら、個別事業が意図する社会変化を言語化し、それらを政策的示唆へと翻訳し、一般化可能な知識として整理・蓄積する制度を構築できるかどうか、今後の研究および実践において問われる課題である。この翻訳作業は、実務主体のみでは担いきれない性質を有しており、理論的枠組みと実証的知見を架橋する大学の関与こそが、産官学連携型政策助言システムの成熟にとって不可欠である。

参考文献

Halligan, J. 1995. "Policy advice and the public sector." In B. Guy Peters & D. T. Savoie (Eds.), *Governance in a changing environment*, pp.138-172, Montreal: McGill-Queen's University Press.

OECD. 2017. "Policy Advisory Systems - Supporting Good Governance and Sound Public Decision Making", OECD Public Governance Reviews. (https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/publications/reports/2017/11/policy-advisory-systems_g1g8362d/9789264283664-en.pdf), 最終閲覧日 2026/01/3

単純集計表

v1 自動車の運転

	度数	%	有効%
有効 1 ほぼ毎日運転する	550	84.0	84.1
2 月に1回以上	42	6.4	6.4
3 年に1回以上	9	1.4	1.4
4 しない・免許がない	53	8.1	8.1
合計	654	99.8	100.0
欠損値 9 無回答	1	0.2	
合計	655	100.0	

v2 近隣との交流

	度数	%	有効%
有効 1 相談や日用品の貸し借り	45	6.9	6.9
2 世間話をする	136	20.8	20.8
3 挨拶をする	420	64.1	64.1
4 つきあいはない	54	8.2	8.2
合計	655	100.0	100.0

v1 自動車の運転				
		度数	有効%	
有効	1 ほぼ毎日運転する	550	84.1	
	2 月に1回以上	42	6.4	
	3 年に1回以上	9	1.4	
	4 しない・免許がない	53	8.1	
	合計	654	100.0	
欠損値	9 無回答	1		
合計		655		
v2 近隣との交流				

		度数	有効%	
有効	1 相談や日用品の貸し借り	45	6.9	
	2 世間話をする	136	20.8	
	3 挨拶をする	420	64.1	
	4 つきあいはない	54	8.2	
	合計	655	100.0	

v3_1 交流：親族

	度数	%	有効%
有効 1 ほぼ毎日	112	17.1	17.1
2 週に1回以上	163	24.9	24.9
3 月に1回以上	158	24.1	24.1
4 年に1回以上	140	21.4	21.4
5 ほとんどない	82	12.5	12.5
合計	655	100.0	100.0

v3_2 交流：職場

	度数	%	有効%
有効 1 ほぼ毎日	64	9.8	9.8
2 週に2回以上	44	6.7	6.7
3 月に2回以上	102	15.6	15.6
4 年に2回以上	169	25.8	25.8
5 ほとんどない	276	42.1	42.1
合計	655	100.0	100.0

v3_3 交流：その他の友人

	度数	%	有効%
有効 1 ほぼ毎日	71	10.8	10.8
2 週に3回以上	110	16.8	16.8
3 月に3回以上	203	31.0	31.0
4 年に3回以上	170	26.0	26.0
5 ほとんどない	101	15.4	15.4
合計	655	100.0	100.0

v4 居住年数

	度数	%	有効%
有効 1 1年未満	13	2.0	2.0
2 1年以上5年未満	53	8.1	8.1
3 5年以上10年未満	37	5.6	5.7
4 10年以上20年未満	124	18.9	19.0
5 20年以上30年未満	163	24.9	24.9
6 30年以上	264	40.3	40.4
合計	654	99.8	100.0
欠損値 9 無回答	1	0.2	
合計	655	100.0	

v5 市内親族数

	度数	%	有効%
有効 1 ない (0軒)	171	26.1	26.2
2 1~2軒	263	40.2	40.3
3 3~5軒	169	25.8	25.9
4 6~9軒	28	4.3	4.3
5 10軒以上	21	3.2	3.2
合計	652	99.5	100.0
欠損値 9 無回答	3	0.5	
合計	655	100.0	

v6 婚姻状態

	度数	%	有効%
有効 1 既婚	443	67.6	67.6
2 死別	5	0.8	0.8
3 離別	52	7.9	7.9
4 未婚	155	23.7	23.7
合計	655	100.0	100.0

v7 子どもの有無

	度数	%	有効%
有効 1 あり	443	67.6	68.4
2 なし	205	31.3	31.6
合計	648	98.9	100.0
欠損値 9 無回答	7	1.1	
合計	655	100.0	

v7sq 子ども人数

	度数	%	有効%
有効 0	205	31.3	38.1
1	88	13.4	16.4
2	177	27.0	32.9
3	63	9.6	11.7
4	4	0.6	0.7
5	1	0.2	0.2
合計	538	82.1	100.0
欠損値 9 無回答	117	17.9	
合計	655	100.0	

v7sq1 第一子年齢

	度数	%	有効%
有効 0	5	0.8	5.9
1	8	1.2	9.4
2	8	1.2	9.4
3	3	0.5	3.5
4	3	0.5	3.5
5	1	0.2	1.2
6	3	0.5	3.5
7	2	0.3	2.4
8	5	0.8	5.9
9	6	0.9	7.1
10	4	0.6	4.7
11	3	0.5	3.5
12	1	0.2	1.2
13	5	0.8	5.9
14	3	0.5	3.5
15	3	0.5	3.5
16	4	0.6	4.7
17	3	0.5	3.5
18	4	0.6	4.7
19	2	0.3	2.4
21	1	0.2	1.2
22	4	0.6	4.7
23	1	0.2	1.2
24	1	0.2	1.2
25	1	0.2	1.2
27	1	0.2	1.2
合計	85	13.0	100.0
欠損値 88 非該当	457	69.8	
99 無回答	113	17.3	
合計	570	87.0	
合計	655	100.0	

v7sq2 長子年齢

	度数	%	有効%
有効 2	1	0.2	0.4
3	5	0.8	2.1
4	11	1.7	4.6
5	6	0.9	2.5
6	2	0.3	0.8
7	3	0.5	1.2
8	3	0.5	1.2
9	13	2.0	5.4
10	12	1.8	5.0
11	10	1.5	4.1
12	6	0.9	2.5
13	11	1.7	4.6
14	19	2.9	7.9
15	12	1.8	5.0
16	13	2.0	5.4
17	14	2.1	5.8
18	11	1.7	4.6
19	12	1.8	5.0
20	9	1.4	3.7
21	14	2.1	5.8
22	7	1.1	2.9
23	10	1.5	4.1
24	9	1.4	3.7
25	4	0.6	1.7
26	2	0.3	0.8
27	6	0.9	2.5
28	6	0.9	2.5
29	5	0.8	2.1
30	2	0.3	0.8
31	1	0.2	0.4
32	2	0.3	0.8
合計	241	36.8	100.0
欠損値 88 非該当	293	44.7	
99 無回答	121	18.5	
合計	414	63.2	
合計	655	100.0	

v7sq3 末子年齢

	度数	%	有効%
有効 0	12	1.8	5.0
1	5	0.8	2.1
2	14	2.1	5.8
3	10	1.5	4.1
4	8	1.2	3.3
5	11	1.7	4.6
6	7	1.1	2.9
7	15	2.3	6.2
8	12	1.8	5.0
9	13	2.0	5.4
10	7	1.1	2.9
11	12	1.8	5.0
12	16	2.4	6.6
13	9	1.4	3.7
14	8	1.2	3.3
15	13	2.0	5.4
16	8	1.2	3.3
17	9	1.4	3.7
18	5	0.8	2.1
19	11	1.7	4.6
20	6	0.9	2.5
21	7	1.1	2.9
22	5	0.8	2.1
23	6	0.9	2.5
24	2	0.3	0.8
25	3	0.5	1.2
26	3	0.5	1.2
27	3	0.5	1.2
29	1	0.2	0.4
合計	241	36.8	100.0
欠損値 88 非該当	293	44.7	
99 無回答	121	18.5	
合計	414	63.2	
合計	655	100.0	

v8_1 相談相手：配偶者（パートナー）

	度数	%	有効%
有効 0 なし	244	37.3	37.3
1 あり	411	62.7	62.7
合計	655	100.0	100.0

v8_2 相談相手：同居のご家族

	度数	%	有効%
有効 0 なし	428	65.3	65.3
1 あり	227	34.7	34.7
合計	655	100.0	100.0

v8_3 相談相手：家族以外の親族

	度数	%	有効%
有効 0 なし	457	69.8	69.8
1 あり	198	30.2	30.2
合計	655	100.0	100.0

v8_4 相談相手：近所の人

	度数	%	有効%
有効 0 なし	619	94.5	94.5
1 あり	36	5.5	5.5
合計	655	100.0	100.0

v8_5 相談相手：職場や仕事関係の人

	度数	%	有効%
有効 0 なし	428	65.3	65.3
1 あり	227	34.7	34.7
合計	655	100.0	100.0

v8_6 相談相手：その他の知人・友人

	度数	%	有効%
有効 0 なし	317	48.4	48.4
1 あり	338	51.6	51.6
合計	655	100.0	100.0

v8_7 相談相手：いない

	度数	%	有効%
有効 0 なし	620	94.7	94.7
1 あり	35	5.3	5.3
合計	655	100.0	100.0

v9_1 性別意識：男性には男性、女性には女性に向けた仕事がある

	度数	%	有効%
有効 1 そう思う	211	32.2	32.3
2 どちらかといえばそう思う	289	44.1	44.2
3 どちらかといえばそう思わない	77	11.8	11.8
4 そう思わない	77	11.8	11.8
合計	654	99.8	100.0
欠損値 9 無回答	1	0.2	
合計	655	100.0	

v9_2 性別意識：管理職や責任ある立場には、なるべく男性がつくほうがよい

	度数	%	有効%
有効 1 そう思う	21	3.2	3.2
2 どちらかといえばそう思う	78	11.9	11.9
3 どちらかといえばそう思わない	187	28.5	28.6
4 そう思わない	367	56.0	56.2
合計	653	99.7	100.0
欠損値 9 無回答	2	0.3	
合計	655	100.0	

v9_3 性別意識：男性は外で働き、女性は家庭に入るのがよい

	度数	%	有効%
有効 1 そう思う	17	2.6	2.6
2 どちらかといえばそう思う	58	8.9	8.9
3 どちらかといえばそう思わない	159	24.3	24.5
4 そう思わない	415	63.4	63.9
合計	649	99.1	100.0
欠損値 9 無回答	6	0.9	
合計	655	100.0	

v10 女性のライフコース

	度数	%	有効%
有効 1 結婚せず、仕事を続ける	12	1.8	1.8
2 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける	14	2.1	2.1
3 結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける	305	46.6	46.8
4 結婚・出産後に退職し、子育て後に再び仕事を持つ	225	34.4	34.5
5 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない	18	2.7	2.8
6 その他	78	11.9	12.0
合計	652	99.5	100.0
欠損値 9 無回答	3	0.5	
合計	655	100.0	

v11 夫婦の収入バランス

	度数	%	有効%
有効 1 夫が1人で	20	3.1	3.1
2 共働きで主に夫	340	51.9	52.3
3 共働きで同程度	212	32.4	32.6
4 共働きで主に妻	6	0.9	0.9
5 妻が1人で	3	0.5	0.5
6 その他	69	10.5	10.6
合計	650	99.2	100.0
欠損値 9 無回答	5	0.8	
合計	655	100.0	

v12 夫婦の家事育児バランス

	度数	%	有効%
有効 1 妻が1人で	5	0.8	0.8
2 主に妻	206	31.5	31.5
3 同じくらい	388	59.2	59.4
4 主に夫	3	0.5	0.5
5 夫が1人で	2	0.3	0.3
6 その他	49	7.5	7.5
合計	653	99.7	100.0
欠損値 9 無回答	2	0.3	
合計	655	100.0	

v13 ワークライフバランスの理想

	度数	%	有効%
有効 1 仕事を重視	39	6.0	6.0
2 家族やプライベートを重視	248	37.9	38.2
3 仕事も家族も重視	363	55.4	55.8
合計	650	99.2	100.0
欠損値 9 無回答	5	0.8	
合計	655	100.0	

v12 夫婦の家事育児バランス

	度数	%	有効%
有効 1 妻が1人で	5	0.8	0.8
2 主に妻	206	31.5	31.5
3 同じくらい	388	59.2	59.4
4 主に夫	3	0.5	0.5
5 夫が1人で	2	0.3	0.3
6 その他	49	7.5	7.5
合計	653	99.7	100.0
欠損値 9 無回答	2	0.3	
合計	655	100.0	

v13 ワークライフバランスの理想

	度数	%	有効%
有効 1 仕事を重視	39	6.0	6.0
2 家族やプライベートを重視	248	37.9	38.2
3 仕事も家族も重視	363	55.4	55.8
合計	650	99.2	100.0
欠損値 9 無回答	5	0.8	
合計	655	100.0	

v14_1 満足度：現在の仕事

	度数	%	有効%
有効 1 満足	115	17.6	19.7
2 やや満足	261	39.8	44.8
3 やや不満	143	21.8	24.5
4 不満	64	9.8	11.0
合計	583	89.0	100.0
欠損値 8 非該当	71	10.8	
9 無回答	1	0.2	
合計	72	11.0	
合計	655	100.0	

v14_2 満足度：職場の人間関係

	度数	%	有効%
有効 1 満足	162	24.7	28.0
2 やや満足	272	41.5	47.1
3 やや不満	103	15.7	17.8
4 不満	41	6.3	7.1
合計	578	88.2	100.0
欠損値 8 非該当	72	11.0	
9 無回答	5	0.8	
合計	77	11.8	
合計	655	100.0	

v14_3 満足度：家族関係

	度数	%	有効%
有効 1 満足	360	55.0	55.6
2 やや満足	206	31.5	31.8
3 やや不満	69	10.5	10.7
4 不満	12	1.8	1.9
合計	647	98.8	100.0
欠損値 9 無回答	8	1.2	
合計	655	100.0	

v14_4 満足度：友人との関係

	度数	%	有効%
有効 1 満足	347	53.0	53.9
2 やや満足	241	36.8	37.4
3 やや不満	42	6.4	6.5
4 不満	14	2.1	2.2
合計	644	98.3	100.0
欠損値 9 無回答	11	1.7	
合計	655	100.0	

v14_5 満足度：生活全体

	度数	%	有効%
有効 1 満足	190	29.0	29.4
2 やや満足	323	49.3	50.0
3 やや不満	102	15.6	15.8
4 不満	31	4.7	4.8
合計	646	98.6	100.0
欠損値 9 無回答	9	1.4	
合計	655	100.0	

v15 居住意向

	度数	%	有効%
有効 1 ずっと住みたい	175	26.7	26.9
2 当面は住みたい	347	53.0	53.3
3 いずれ引っ越したい	113	17.3	17.4
4 すぐにでも引っ越したい	16	2.4	2.5
合計	651	99.4	100.0
欠損値 9 無回答	4	0.6	
合計	655	100.0	

v16 恋人の有無

	度数	%	有効%
有効 1 いる	34	5.2	22.2
2 以前はいたが、今はいない	67	10.2	43.8
3 いたことがない	52	7.9	34.0
合計	153	23.4	100.0
欠損値 8 非該当	500	76.3	
9 無回答	2	0.3	
合計	502	76.6	
合計	655	100.0	

v17 結婚の意思

	度数	%	有効%
有効 1 いずれ結婚したい	131	20.0	63.6
2 一生結婚するつもりはない	75	11.5	36.4
合計	206	31.5	100.0
欠損値 8 非該当	447	68.2	
9 無回答	2	0.3	
合計	449	68.5	
合計	655	100.0	

v18_1 交際相手に求めるもの：学歴

	度数	%	有効%
有効 1 重視する	2	0.3	1.9
2 やや重視する	26	4.0	24.1
3 あまり重視しない	62	9.5	57.4
4 重視しない	18	2.7	16.7
合計	108	16.5	100.0
欠損値 8 非該当	545	83.2	
9 無回答	2	0.3	
合計	547	83.5	
合計	655	100.0	

v18_2 交際相手に求めるもの：相手の職業

	度数	%	有効%
有効 1 重視する	10	1.5	9.3
2 やや重視する	48	7.3	44.4
3 あまり重視しない	39	6.0	36.1
4 重視しない	11	1.7	10.2
合計	108	16.5	100.0
欠損値 8 非該当	545	83.2	
9 無回答	2	0.3	
合計	547	83.5	
合計	655	100.0	

v18_3 交際相手に求めるもの：相手の収入などの経済力

	度数	%	有効%
有効 1 重視する	18	2.7	16.7
2 やや重視する	49	7.5	45.4
3 あまり重視しない	34	5.2	31.5
4 重視しない	7	1.1	6.5
合計	108	16.5	100.0
欠損値 8 非該当	545	83.2	
9 無回答	2	0.3	
合計	547	83.5	
合計	655	100.0	

v18_4 交際相手に求めるもの：相手の人柄

	度数	%	有効%
有効 1 重視する	98	15.0	91.6
2 やや重視する	7	1.1	6.5
3 あまり重視しない	1	0.2	0.9
4 重視しない	1	0.2	0.9
合計	107	16.3	100.0
欠損値 8 非該当	545	83.2	
9 無回答	3	0.5	
合計	548	83.7	
合計	655	100.0	

v18_5 交際相手に求めるもの：相手の容姿

	度数	%	有効%
有効 1 重視する	17	2.6	15.9
2 やや重視する	61	9.3	57.0
3 あまり重視しない	27	4.1	25.2
4 重視しない	2	0.3	1.9
合計	107	16.3	100.0
欠損値 8 非該当	545	83.2	
9 無回答	3	0.5	
合計	548	83.7	
合計	655	100.0	

v18_6 交際相手に求めるもの：共通の趣味の有無

	度数	%	有効%
有効 1 重視する	21	3.2	19.6
2 やや重視する	54	8.2	50.5
3 あまり重視しない	29	4.4	27.1
4 重視しない	3	0.5	2.8
合計	107	16.3	100.0
欠損値 8 非該当	545	83.2	
9 無回答	3	0.5	
合計	548	83.7	
合計	655	100.0	

v18_7 交際相手に求めるもの：自分の仕事に対する理解と協力

	度数	%	有効%
有効 1 重視する	50	7.6	46.7
2 やや重視する	48	7.3	44.9
3 あまり重視しない	8	1.2	7.5
4 重視しない	1	0.2	0.9
合計	107	16.3	100.0
欠損値 8 非該当	545	83.2	
9 無回答	3	0.5	
合計	548	83.7	
合計	655	100.0	

v18_8 交際相手に求めるもの：家事・育児に対する能力や姿勢

	度数	%	有効%
有効 1 重視する	58	8.9	53.7
2 やや重視する	44	6.7	40.7
3 あまり重視しない	4	0.6	3.7
4 重視しない	2	0.3	1.9
合計	108	16.5	100.0
欠損値 8 非該当	545	83.2	
9 無回答	2	0.3	
合計	547	83.5	
合計	655	100.0	

v19_1 独身の理由：結婚するにはまだ若すぎるから

	度数	%	有効%
有効 0 なし	650	99.2	99.2
1 あり	5	0.8	0.8
合計	655	100.0	100.0

v19_2 独身の理由：結婚する必要性をまだ感じないから

	度数	%	有効%
有効 0 なし	648	98.9	98.9
1 あり	7	1.1	1.1
合計	655	100.0	100.0

v19_3 独身の理由：今は、仕事（または学業）にうちこみたいから

	度数	%	有効%
有効 0 なし	639	97.6	97.6
1 あり	16	2.4	2.4
合計	655	100.0	100.0

v19_4 独身の理由：今は、趣味や娯楽を楽しみたいから

	度数	%	有効%
有効 0 なし	637	97.3	97.3
1 あり	18	2.7	2.7
合計	655	100.0	100.0

v19_5 独身の理由：独身の自由さや気楽さを失いたくないから

	度数	%	有効%
有効 0 なし	637	97.3	97.3
1 あり	18	2.7	2.7
合計	655	100.0	100.0

v19_6 独身の理由：適当な相手にまだめぐり会わないから

	度数	%	有効%
有効 0 なし	622	95.0	95.0
1 あり	33	5.0	5.0
合計	655	100.0	100.0

v19_7 独身の理由：異性とうまくつき合えないから

	度数	%	有効%
有効 0 なし	638	97.4	97.4
1 あり	17	2.6	2.6
合計	655	100.0	100.0

v19_8 独身の理由：結婚資金が足りないから

	度数	%	有効%
有効 0 なし	634	96.8	96.8
1 あり	21	3.2	3.2
合計	655	100.0	100.0

v19_9 独身の理由：結婚生活のための住居のめどがたたないから

	度数	%	有効%
有効 0 なし	648	98.9	98.9
1 あり	7	1.1	1.1
合計	655	100.0	100.0

v19_10 独身の理由：親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から

	度数	%	有効%
有効 0 なし	652	99.5	99.5
1 あり	3	0.5	0.5
合計	655	100.0	100.0

v19_11 独身の理由：その他

	度数	%	有効%
有効 0 なし	652	99.5	99.5
1 あり	3	0.5	0.5
合計	655	100.0	100.0

v19_12 独身の理由：あてはまるものはないv19t 独身の理由自由記述

	度数	%	有効%
有効 0 なし	655	100.0	100.0

v20 出会いのきっかけ

	度数	%	有効%
有効 1 学校で	44	6.7	6.7
2 職場や仕事の関係で	137	20.9	20.9
3 幼なじみ・隣人関係	10	1.5	1.5
4 学校以外のサークル活動や習いごとで	21	3.2	3.2
5 友人や兄弟姉妹を通じて	124	18.9	18.9
6 見合いで（親せき・上役などの紹介も含む）	12	1.8	1.8
7 結婚相談所で（オンラインを含む）	22	3.4	3.4
8 街なかや旅先で	234	35.7	35.7
9 アルバイトで	31	4.7	4.7
10 インターネットで	20	3.1	3.1
合計	655	100.0	100.0

v21 結婚理由

	度数	%	有効%
有効 1 結婚資金（挙式や新生活の準備のための費用）が用意できた	6	0.9	1.4
2 収入や住居など結婚生活の経済的基盤ができた	31	4.7	7.0
3 自分または相手の仕事の都合	20	3.1	4.5
4 できるだけ早く一緒にいたかった	85	13.0	19.2
5 年齢的に適当な時期だと感じた	196	29.9	44.2
6 子どもができた	67	10.2	15.1
7 友人や同年代の人たちの結婚	7	1.1	1.6
8 親や周囲のすすめ	9	1.4	2.0
9 その他	22	3.4	5.0
合計	443	67.6	100.0
欠損値 88 非該当	212	32.4	
合計	655	100.0	

v22_1 夫婦の収入バランス

	度数	%	有効%
有効 1 夫が多い	368	56.2	83.6
2 同じくらい	41	6.3	9.3
3 妻が多い	22	3.4	5.0
4 わからない	9	1.4	2.0
合計	440	67.2	100.0
欠損値 8 非該当	212	32.4	
9 無回答	3	0.5	
合計	215	32.8	
合計	655	100.0	

v22_2 夫婦の家事育児バランス

	度数	%	有効%
有効 1 妻が多い	358	54.7	81.9
2 同じくらい	64	9.8	14.6
3 夫が多い	10	1.5	2.3
4 他の人が担当	5	0.8	1.1
合計	437	66.7	100.0
欠損値 8 非該当	212	32.4	
9 無回答	6	0.9	
合計	218	33.3	
合計	655	100.0	

v23 あなたにとって、理想的な子どもの数は何ですか。

	度数	%	有効%
有効 10人	52	7.9	8.0
2 1人	43	6.6	6.6
3 2人	362	55.3	55.7
4 3人	168	25.6	25.8
5 4人以上	25	3.8	3.8
合計	650	99.2	100.0
欠損値 9 無回答	5	0.8	
合計	655	100.0	

v24_1 本人性別

	度数	%	有効%
有効 1 男性	226	34.5	34.8
2 女性	423	64.6	65.1
3 その他	1	0.2	0.2
合計	650	99.2	100.0
欠損値 9 無回答	5	0.8	
合計	655	100.0	

v24_3_1 兄がいる

	度数	%	有効%
有効 0 なし	454	69.3	69.3
1 あり	201	30.7	30.7
合計	655	100.0	100.0

v24_3_2 姉がいる

	度数	%	有効%
有効 0 なし	479	73.1	73.1
1 あり	176	26.9	26.9
合計	655	100.0	100.0

v24_3_3 弟がいる

	度数	%	有効%
有効 0 なし	444	67.8	67.8
1 あり	211	32.2	32.2
合計	655	100.0	100.0

v24_3_4 妹がいる

	度数	%	有効%
有効 0 なし	478	73.0	73.0
1 あり	177	27.0	27.0
合計	655	100.0	100.0

v24_3_5 兄弟姉妹はいない

	度数	%	有効%
有効 0 なし	599	91.5	91.5
1 あり	56	8.5	8.5
合計	655	100.0	100.0

v24_4 本人きょうだい数

	度数	%	有効%
有効 0	56	8.5	8.8
1	22	3.4	3.5
2	329	50.2	51.7
3	193	29.5	30.3
4	28	4.3	4.4
5	3	0.5	0.5
6	2	0.3	0.3
7	3	0.5	0.5
合計	636	97.1	100.0
欠損値 9 無回答	19	2.9	
合計	655	100.0	

v24_5 本人出生順位

	度数	%	有効%
有効 1	325	49.6	49.8
2	238	36.3	36.4
3	79	12.1	12.1
4	8	1.2	1.2
5	1	0.2	0.2
6	2	0.3	0.3
合計	653	99.7	100.0
欠損値 9 不詳	2	0.3	
合計	655	100.0	

v25_1 本人学歴

	度数	%	有効%
有効 1 中学校	21	3.2	3.2
2 高等学校	222	33.9	34.1
3 専門学校	111	16.9	17.1
4 短大・高専	94	14.4	14.4
5 大学・大学院	203	31.0	31.2
合計	651	99.4	100.0
欠損値 9 無回答	4	0.6	
合計	655	100.0	

v25_2 本人中卒時居住地

	度数	%	有効%
有効 1 名張市内	391	59.7	60.1
2 名張市以外の三重県内	93	14.2	14.3
3 三重県外（海外含む）	167	25.5	25.7
合計	651	99.4	100.0
欠損値 9 無回答	4	0.6	
合計	655	100.0	

v26_1 配偶者年齢

	度数	%	有効%
有効 2 20～24歳	1	0.2	0.2
3 25～29歳	63	9.6	14.4
4 30～34歳	67	10.2	15.3
5 35～39歳	90	13.7	20.5
6 40～44歳	89	13.6	20.3
7 45～49歳	90	13.7	20.5
8 50～54歳	39	6.0	8.9
合計	439	67.0	100.0
欠損値 88 非該当	214	32.7	
99 無回答	2	0.3	
合計	216	33.0	
合計	655	100.0	

v26_2 配偶者学歴

	度数	%	有効%
有効 1 中学校	19	2.9	4.3
2 高等学校	146	22.3	33.1
3 専門学校	67	10.2	15.2
4 短大・高専	43	6.6	9.8
5 大学・大学院	165	25.2	37.4
6 わからない	1	0.2	0.2
合計	441	67.3	100.0
欠損値 8 非該当	214	32.7	
合計	655	100.0	

v26_3 配偶者中卒時居住地

	度数	%	有効%
有効 1 名張市内	227	34.7	51.6
2 名張市以外の三重県内	72	11.0	16.4
3 三重県外（海外含む）	137	20.9	31.1
4 わからない	4	0.6	0.9
合計	440	67.2	100.0
欠損値 9 無回答	215	32.8	
合計	655	100.0	

v27 実家（態度決定地）の現在

	度数	%	有効%
有効 1 あなた自身または親族（親・兄弟姉妹・おい・めいなど）が住んでいる	490	74.8	75.6
2 別の誰かが住んでいる	97	14.8	15.0
3 誰も住んでおらず、事務所や店舗、駐車場などになっている	4	0.6	0.6
4 誰も住んでおらず、空き家になっている	15	2.3	2.3
5 誰も住んでおらず、更地や空き地になっている	10	1.5	1.5
6 わからない	32	4.9	4.9
合計	648	98.9	100.0
欠損値 9 無回答	7	1.1	
合計	655	100.0	

v27 実家（態度決定地）の現在

	度数	%	有効%
有効 1 あなた自身または親族（親・兄弟姉妹・おい・めいなど）が住んでいる	490	74.8	75.6
2 別の誰かが住んでいる	97	14.8	15.0
3 誰も住んでおらず、事務所や店舗、駐車場などになっている	4	0.6	0.6
4 誰も住んでおらず、空き家になっている	15	2.3	2.3
5 誰も住んでおらず、更地や空き地になっている	10	1.5	1.5
6 わからない	32	4.9	4.9
合計	648	98.9	100.0
欠損値 9 無回答	7	1.1	
合計	655	100.0	

v28_2 本人親：出身地

	度数	%	有効%
有効 1 2人とも名張市	222	33.9	34.3
2 1人は名張市	416	63.5	64.3
3 わからない	9	1.4	1.4
合計	647	98.8	100.0
欠損値 9 無回答	8	1.2	
合計	655	100.0	

v28_3a 本人から親へ：病気や怪我のときの手助け

	度数	%	有効%
有効 0 なし	319	48.7	48.7
1 あり	336	51.3	51.3
合計	655	100.0	100.0

v28_3b 本人から親へ：掃除や洗濯など日常生活の手助け

	度数	%	有効%
有効 0 なし	509	77.7	77.7
1 あり	146	22.3	22.3
合計	655	100.0	100.0

v28_3c 本人から親へ：困ったときの金銭的な援助

	度数	%	有効%
有効 0 なし	579	88.4	88.4
1 あり	76	11.6	11.6
合計	655	100.0	100.0

v28_3d 本人から親へ：生活費の援助

	度数	%	有効%
有効 0 なし	597	91.1	91.1
1 あり	58	8.9	8.9
合計	655	100.0	100.0

v28_3e 本人から親へ：介護

	度数	%	有効%
有効 0 なし	617	94.2	94.2
1 あり	38	5.8	5.8
合計	655	100.0	100.0

v28_3f 本人から親へ：この中にはない

	度数	%	有効%
有効 0 なし	425	64.9	64.9
1 あり	230	35.1	35.1
合計	655	100.0	100.0

v28_4a 親から本人へ病気や怪我のときの手助け

	度数	%	有効%
有効 0 なし	377	57.6	57.6
1 あり	278	42.4	42.4
合計	655	100.0	100.0

v28_4b 親から本人へ掃除や洗濯など日常生活の手助け

	度数	%	有効%
有効 0 なし	475	72.5	72.5
1 あり	180	27.5	27.5
合計	655	100.0	100.0

v28_4c 親から本人へ困ったときの金銭的な援助

	度数	%	有効%
有効 0 なし	494	75.4	75.4
1 あり	161	24.6	24.6
合計	655	100.0	100.0

v28_4d 親から本人へ生活費の援助

	度数	%	有効%
有効 0 なし	565	86.3	86.3
1 あり	90	13.7	13.7
合計	655	100.0	100.0

v28_4e 親から本人へあなたの子どもの世話

	度数	%	有効%
有効 0 なし	452	69.0	69.0
1 あり	203	31.0	31.0
合計	655	100.0	100.0

v28_4f 親から本人へこの中にはない

	度数	%	有効%
有効 0 なし	466	71.1	71.1
1 あり	189	28.9	28.9
合計	655	100.0	100.0

v29_1 配偶者親：居住地

	度数	%	有効%
有効 1 同居または同じ敷地内	41	6.3	9.4
2 30分かからないところ	204	31.1	46.6
3 30～60分以内のところ	40	6.1	9.1
4 60～120分以内のところ	58	8.9	13.2
5 120分以上かかるところ	59	9.0	13.5
6 2人とも亡くなった	36	5.5	8.2
合計	438	66.9	100.0
欠損値 8 非該当	216	33.0	
9 無回答	1	0.2	
合計	217	33.1	
合計	655	100.0	

v29_2 配偶者親：出身地

	度数	%	有効%
有効 1 2人とも名張市	129	19.7	29.4
2 1人は名張市	301	46.0	68.6
3 わからない	9	1.4	2.1
合計	439	67.0	100.0
欠損値 8 非該当	216	33.0	
合計	655	100.0	

v29_3a 配偶者親へ病気や怪我のときの手助け

	度数	%	有効%
有効 0 なし	318	48.5	63.6
1 あり	182	27.8	36.4
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_3c 配偶者親へ困ったときの金銭的な援助

	度数	%	有効%
有効 0 なし	468	71.5	93.6
1 あり	32	4.9	6.4
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_3b 配偶者親へ掃除や洗濯など日常生活の手助け

	度数	%	有効%
有効 0 なし	443	67.6	88.6
1 あり	57	8.7	11.4
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_3d 配偶者親へ生活費の援助

	度数	%	有効%
有効 0 なし	481	73.4	96.2
1 あり	19	2.9	3.8
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_3e 配偶者親へ介護

	度数	%	有効%
有効 0 なし	473	72.2	94.6
1 あり	27	4.1	5.4
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_3f 配偶者親へこの中にはない

	度数	%	有効%
有効 0 なし	306	46.7	61.2
1 あり	194	29.6	38.8
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_4a 配偶者親から病気や怪我のときの手助け

	度数	%	有効%
有効 0 なし	391	59.7	78.2
1 あり	109	16.6	21.8
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_4b 配偶者親から掃除や洗濯など日常生活の手助け

	度数	%	有効%
有効 0 なし	461	70.4	92.2
1 あり	39	6.0	7.8
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_4c 配偶者親から困ったときの金銭的な援助

	度数	%	有効%
有効 0 なし	437	66.7	87.4
1 あり	63	9.6	12.6
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_4d 配偶者親から生活費の援助

	度数	%	有効%
有効 0 なし	478	73.0	95.6
1 あり	22	3.4	4.4
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_4e 配偶者親からあなたの子どもの世話

	度数	%	有効%
有効 0 なし	367	56.0	73.4
1 あり	133	20.3	26.6
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v29_4f 配偶者親からこの中にはない

	度数	%	有効%
有効 0 なし	310	47.3	62.0
1 あり	190	29.0	38.0
合計	500	76.3	100.0
欠損値 8 非該当	155	23.7	
合計	655	100.0	

v30_1 本人：雇用形態

	度数	%	有効%
有効 1 経営者・役員	19	2.9	2.9
2 正社員・正職員（期間の定めのない雇用）	302	46.1	46.5
3 嘱託・派遣・契約社員など（期間の定めのある雇用）	43	6.6	6.6
4 パート・アルバイトなど	178	27.2	27.4
5 自営業・家族従業者・フリーランス	37	5.6	5.7
6 収入をとまなう仕事はしていない	71	10.8	10.9
合計	650	99.2	100.0
欠損値 9 無回答	5	0.8	
合計	655	100.0	

v30_2 本人：業種

	度数	%	有効%
有効 1 農林漁業	5	0.8	0.9
2 鉱業・製造業・建設業	191	29.2	33.5
3 電気・ガス・水道	6	0.9	1.1
4 情報通信業	9	1.4	1.6
5 運輸・郵便業	10	1.5	1.8
6 卸売・小売業	62	9.5	10.9
7 金融・保険業・不動産・物品賃貸業	24	3.7	4.2
8 研究・専門サービス（弁護士など）	13	2.0	2.3
9 宿泊・飲食業・娯楽業	44	6.7	7.7
10 生活関連サービス（クリーニング店など）	24	3.7	4.2
11 教育・学習支援	42	6.4	7.4
12 医療・福祉	109	16.6	19.1
13 公務	29	4.4	5.1
14 その他	3	0.5	0.5
合計	571	87.2	100.0
欠損値 88 非該当	71	10.8	
99 無回答	13	2.0	
合計	84	12.8	
合計	655	100.0	

v30_3 本人：職種

	度数	%	有効%
有効 1 専門的な仕事（医師・看護師など）	116	17.7	20.3
2 管理的な仕事（課長以上の管理職など）	30	4.6	5.3
3 技術的な仕事（栄養士やSEなど）	32	4.9	5.6
4 事務的な仕事（営業・経理の事務職など）	101	15.4	17.7
5 販売やサービスの仕事（店員など）	124	18.9	21.7
6 農林漁業関係の仕事	3	0.5	0.5
7 技能を要する生産関係の仕事	23	3.5	4.0
8 機械操作・工場での生産関係の仕事	82	12.5	14.4
9 現場作業が中心の仕事	60	9.2	10.5
合計	571	87.2	100.0
欠損値 88 非該当	71	10.8	
99 無回答	13	2.0	
合計	84	12.8	
合計	655	100.0	

v30_4 本人：企業規模

	度数	%	有効%
有効 1 1～9人	80	12.2	13.9
2 10～29人	100	15.3	17.4
3 30～299人	201	30.7	34.9
4 300～999人	91	13.9	15.8
5 1000人以上	95	14.5	16.5
6 官公庁	9	1.4	1.6
合計	576	87.9	100.0
欠損値 8 非該当	71	10.8	
9 無回答	8	1.2	
合計	79	12.1	
合計	655	100.0	

v30_5 本人：通勤時間

	度数	%	有効%
有効 1 15分以内（自宅仕事含む）	282	43.1	49.0
2 15~30分	165	25.2	28.7
3 30~60分	85	13.0	14.8
4 60分以上	33	5.0	5.7
5 決まっていない	10	1.5	1.7
合計	575	87.8	100.0
欠損値 8 非該当	71	10.8	
9 無回答	9	1.4	
合計	80	12.2	
合計	655	100.0	

v30_6 本人：勤務地

	度数	%	有効%
有効 1 名張市内	384	58.6	67.4
2 伊賀市	125	19.1	21.9
3 伊賀市以外の三重県内	17	2.6	3.0
4 三重県外	44	6.7	7.7
合計	570	87.0	100.0
欠損値 8 非該当	71	10.8	
9 無回答	14	2.1	
合計	85	13.0	
合計	655	100.0	

v31_1 配偶者：雇用形態

	度数	%	有効%
有効 1 経営者・役員	25	3.8	5.7
2 正社員・正職員（期間の定めのない雇用）	291	44.4	66.3
3 嘱託・派遣・契約社員など（期間の定めのある雇用）	14	2.1	3.2
4 パート・アルバイトなど	57	8.7	13.0
5 自営業・家族従業者・フリーランス	24	3.7	5.5
6 収入をともなう仕事はしていない	28	4.3	6.4
合計	439	67.0	100.0
欠損値 8 非該当	213	32.5	
9 無回答	3	0.5	
合計	216	33.0	
合計	655	100.0	

v31_2 配偶者：業種

	度数	%	有効%
有効 1 農林漁業	1	0.2	0.2
2 鉱業・製造業・建設業	164	25.0	26.3
3 電気・ガス・水道	14	2.1	2.2
4 情報通信業	10	1.5	1.6
5 運輸・郵便業	14	2.1	2.2
6 卸売・小売業	57	8.7	9.1
7 金融・保険業・不動産・物品賃貸業	14	2.1	2.2
8 研究・専門サービス（弁護士など）	219	33.4	35.2
9 宿泊・飲食業・娯楽業	25	3.8	4.0
10 生活関連サービス（クリーニング店など）	18	2.7	2.9
11 教育・学習支援	18	2.7	2.9
12 医療・福祉	42	6.4	6.7
13 公務	27	4.1	4.3
合計	623	95.1	100.0
欠損値 88 非該当	28	4.3	
99 無回答	4	0.6	
合計	32	4.9	
合計	655	100.0	

v31_3 配偶者：職種

	度数	%	有効%
有効 1 専門的な仕事（医師・看護師など）	55	8.4	13.4
2 管理的な仕事（課長以上の管理職など）	68	10.4	16.6
3 技術的な仕事（栄養士やSEなど）	31	4.7	7.6
4 事務的な仕事（営業・経理の事務職など）	51	7.8	12.4
5 販売やサービスの仕事（店員など）	47	7.2	11.5
6 農林漁業関係の仕事	1	0.2	0.2
7 技能を要する生産関係の仕事	25	3.8	6.1
8 機械操作・工場での生産関係の仕事	68	10.4	16.6
9 現場作業が中心の仕事	64	9.8	15.6
合計	410	62.6	100.0
欠損値 88 非該当	245	37.4	
合計	655	100.0	

v31_4 配偶者：企業規模

	度数	%	有効%
有効 1 1～9人	51	7.8	12.5
2 10～29人	43	6.6	10.6
3 30～299人	167	25.5	41.0
4 300～999人	74	11.3	18.2
5 1000人以上	64	9.8	15.7
6 官公庁	8	1.2	2.0
合計	407	62.1	100.0
欠損値 9 無回答	2	0.3	
88 非該当	246	37.6	
合計	248	37.9	
合計	655	100.0	

v31_5 配偶者：通勤時間

	度数	%	有効%
有効 1 15分以内（自宅仕事も含む）	162	24.7	39.6
2 15～30分	111	16.9	27.1
3 30～60分	75	11.5	18.3
4 60分以上	50	7.6	12.2
5 決まっていない	11	1.7	2.7
合計	409	62.4	100.0
欠損値 9 無回答	2	0.3	
88 非該当	244	37.3	
合計	246	37.6	
合計	655	100.0	

v31_6 配偶者：勤務地

	度数	%	有効%
有効 1 名張市内	225	34.4	54.6
2 伊賀市	111	16.9	26.9
3 伊賀市以外の三重県内	22	3.4	5.3
4 三重県外	54	8.2	13.1
合計	412	62.9	100.0
欠損値 8 非該当	240	36.6	
9 無回答	3	0.5	
合計	243	37.1	
合計	655	100.0	

v32 世帯類型

	度数	%	有効%
有効 1 ひとり暮らし（あなただけ）	41	6.3	6.3
2 夫婦のみ世帯（内縁や事実婚も含みます。）	102	15.6	15.7
3 あなた世代と子の二世帯世帯	324	49.5	49.8
4 親とあなた世代の二世帯世帯	130	19.8	20.0
5 三世帯世帯	44	6.7	6.8
6 その他の親族（おじ・おば・おい・めいなど）と同居する世帯	8	1.2	1.2
7 親族以外の方と同居する世帯	1	0.2	0.2
合計	650	99.2	100.0
欠損値 9 無回答	5	0.8	
合計	655	100.0	

v33 居住類型

	度数	%	有効%
有効 1 持ち家（一戸建て）	557	85.0	85.8
2 持ち家（分譲マンションなどの集合住宅）	4	0.6	0.6
3 賃貸住宅（借家、賃貸マンションやアパートなど）	74	11.3	11.4
4 社宅・官舎・寮など	11	1.7	1.7
5 その他	3	0.5	0.5
合計	649	99.1	100.0
欠損値 9 無回答	6	0.9	
合計	655	100.0	

v34 本人年収

	度数	%	有効%
有効 1 200万円未満	235	35.9	37.8
2 200万円以上300万円未満	96	14.7	15.5
3 300万円以上400万円未満	87	13.3	14.0
4 400万円以上600万円未満	120	18.3	19.3
5 600万円以上800万円未満	62	9.5	10.0
6 800万円以上1000万円未満	19	2.9	3.1
7 1000万円以上1200万円未満	2	0.3	0.3
合計	621	94.8	100.0
欠損値 88 非該当	12	1.8	
99 無回答	22	3.4	
合計	34	5.2	
合計	655	100.0	

v35 世帯年収

	度数	%	有効%
有効 1 200万円未満	30	4.6	4.7
2 200万円以上300万円未満	29	4.4	4.6
3 300万円以上400万円未満	56	8.5	8.8
4 400万円以上600万円未満	131	20.0	20.6
5 600万円以上800万円未満	157	24.0	24.7
6 800万円以上1000万円未満	101	15.4	15.9
7 1000万円以上1200万円未満	62	9.5	9.7
8 1200万円以上	42	6.4	6.6
9 その他	28	4.3	4.4
合計	636	97.1	100.0
欠損値 99 無回答	19	2.9	
合計	655	100.0	

v36 居住地域

	度数	%	有効%
有効 1 名張	169	25.8	26.1
2 希中央・鴻之台	19	2.9	2.9
3 蔵持	24	3.7	3.7
4 川西・梅が丘	34	5.2	5.2
5 蘆原	6	0.9	0.9
6 美旗	44	6.7	6.8
7 比奈知	26	4.0	4.0
8 すずらん台	18	2.7	2.8
9 つつじが丘・春日丘	76	11.6	11.7
10 錦生	9	1.4	1.4
11 赤目	26	4.0	4.0
12 箕曲	4	0.6	0.6
13 青蓮寺・百合が丘	52	7.9	8.0
14 国津	1	0.2	0.2
15 桔梗が丘	140	21.4	21.6
合計	648	98.9	100.0
欠損値 99 無回答	7	1.1	
合計	655	100.0	

自由回答⁵

将来、名張市に住み続けたいと思うので子育て支援をもっと拡大してほしい。街に活気が減っていると思うので若者を呼び込む施策をしていくべきだと思う。

財政難の名張では子供たちにはこの先住んでほしくないと伝えています。他県、他の市では学生通学費の半分助成、卒業する子どもに新生活応援費など子育て支援がされているのに名張は給食さえもなく全く子育て支援が無く、産科も大きい病院も無い。交通の便も非常に悪く、生活に車が必需品の地域であるのに不便すぎる。隣の伊賀市は交通費の半額補助、給食など他にもあって、この差は本当に大きい。こんな子育てがしにくくて子育て支援も無く、病院も無い不便な名張にこれから子育てをするかもしれない子供達が住むのは大反対で、子育てのしやすい所へ住むよう、働くよう言っています。本当に住んでいて不便でこの先不安な名張になったと凄く感じます。私自身も便利で安心な地域へ移住したいと感じています。名張に全く魅力を感じていません。

結婚や子育てに関する調査ということで名張市に言いたいのは、中学校給食をセントラルキッチン方式で開始するという計画を早く実行してほしいという事です。三重県で中学校で給食を導入していないのは名張市だけと、PTA 連合会や保護者が集まる行事の時に聞きました。今年度、来年度はセントラルキッチンを作る予算が足りない、財政難で作れないんだと仰っていますが、高市首相や片山財務大臣のように利権を切り捨てて改革をお願いしたいところです。

全ての子供に所得制限なしで一律額の扶養控除の復活増額を望みます。

納税する若い世代の住民を増やしたいならば、学校の充実を図った方が良くと思います。我が家は転勤族ですが、三重に引っ越す際に公立小中学校について調べて、校舎がきれいでエアコン完備、給食がある伊賀市で物件を探して見つからなかった為、名張に住むことになりました。中学校の給食導入が延期され、大変、がっかりしています。市立病院は初診ではほぼ受けられないので、利用することはありませんし、総合病院(専門医)は県外に行っています。医療はとても大事ですが、次代を担う子供たちにも予算をかけていただくことを願っています。名張市は水道料金も大変高くて住みやすくないです。ごみ収集にも費用がかかりますし、今まで住んできた自治体の中でも行政サービスを受けるのにかかる費用が高いと感じています。

中学校給食の早期実現をお願いします。

⁵ *個人情報やそれに類する記載内容、意味をなさない記号的な記入などは除外している。

もっと子育てしやすい市にしてほしい

名張市内全体かはわかりませんが、学校給食の内容が、デザートやふりかけ、パンのジャム、牛乳以外の飲み物が付く事もほぼ無く、自身の給食の経験や、県外の知る限りの給食の内容と比べても大変わびしいと感じます。給食員さんも皆さん大変素晴らしい方々とは存じており、費用の関係かとは思いますが、子供たちが楽しみに給食を迎えられるように、名張市の方にご尽力頂きたくお願いしたいです。

希望する保育園には必ず入れれるくらいのキャパを用意してほしい。少子高齢化の割に希望する保育園にも入れず、託児所のある仕事先など仕事にも制限ができ、今後出産、育児を満足にしていける気がしない。名張市を出たいと日々思います。子育て世代の悩みが増えるような市が良いところだと思わない。

学校給食について、義務教育までは給食を支給してほしい。また朝の給食について、実施する計画を立ててほしい。

給食センターがほしい。子どもの給食費を無償化してほしい。

他の市町村みたいに補助や短期間でも何かが無料になるとか早期中学の給食なども実現してほしいと思います。よろしくをお願いします

図書館は充実していないし、市民プールは無いし、中学給食もないし、子育て支援も不十分。引っ越した事を心の底から後悔している。

働きながら子育てができる環境を整えてほしい。(子どもの長期休みの預かり事業の拡大希望、学童の充実など)

少子高齢化の進む地域でありながら、若者の都市部への流出の歯止めが効いていない。更に産院が無くなり保育園も待機児童や希望の園に入園出来ず、兄弟別の保育園へ預けなければならない。物価高騰も進む中、共働きで生計を建てるのに辛い状況です。人口を増やす為に、大起業のプラントの誘致を行ない、名張市に残って働き場所の確保等に取り組んでいただけたらと思います。働く場所の確保。待機児童問題。等の子育て世代が住みやすい町にしていきたい。です。

中学校の給食がなくなったことにすごく残念です。給食がない代わりに弁当を作るが、また食費もかかる。子どもの支援金などもう少し考えて欲しい。非課税ばかりに言ってる気がする。非課税はほかにお金をもらってるのに毎回非課税に助成金などがある。共働きでも支援がないと厳しい。

子育てについて、まちの保健室にずいぶんとお世話になりました。「悩み事や困りごとを相談

できる人はいますか」という質問に「まちの保健室」と書きたかったです。

病児保育を障害児や、留守番できないような子供のみでも良いので年齢をのばしてほしい。手帳保持者や、福祉サービスの受給者証保持者のみなど。

名張市には小さい子どもを遊ばせるような施設や、設備が充実した公園が少なくやや満足できない。休日はほぼ市外や奈良、大阪方面へ出かけている。高齢者が増えているため、そちらへ財源が回されることも十分理解できるが、このままでは子育て世代の名張市離れがますます増えてしまうのではないかと懸念している。なお、中学校の給食化も早期の実現を希望している。

ナッキー号で「かがやき」や「市民センター」に行けるようにしてほしい。かがやきでは週に5日、市民センターでは月に1日子供向けイベントをしているが、ナッキー号が通っていないので行けない。

子育て世代のパパママ達は、とても疲弊しています。名張市として子育て支援に取り組まれています、パフォーマンスしているだけのようであまり恩恵を感じません。市民が期待していた中学校給食も頓挫してしまいました。そもそも名張市民は、夕張の次は名張か...なんていう危機感を長年抱きながら、財政が不安定な名張市に住み続けています。戸建住宅を購入しているため、とても不安です。未来に希望が持てない状況です。こんな地方にも関わらず土地の価格も高いし、市民税も高い、ガソリンも高い！地元に戻りたくても帰って来られないという声も耳にします。また、名張市では働き口が少ないように思います。伊賀市ほど土地があるわけではないので企業誘致は難しいと思いますが、個人事業主などが開業するに向けてのサポートをしっかりとすべきではないかと思っています。名張で働こうとする人を大切にほしい。抜本的な行政改革のためコンサルに依頼するなど、本気で取り組んで欲しいと切望しています。人口はどんどん減少傾向にあります、人口を増やすために土地の価格を押さえたり固定資産税を減額したりできないものかとも考えます。市の広報誌はカラー印刷でなく白黒印刷で十分なんです。また赤字になったら市民から徴収すればいいとでも思っているのでしょうか、財政が安定してないのに背伸びする必要はないし、お高く止まっている場合ではない！意固地なプライドは捨てて身の丈にあった運営をどうかお願いしたいです。どうかこの声が市へ届きますように。

名張市は三重県内で唯一中学校給食がない。産婦人科も無くなり、子育てするには不向き。隣の伊賀市は給食費も無料なのに不公平感がある。元々伊賀市出身なので名張は本当に子育てに優しくない市だと思います。家が無ければ伊賀に引っ越したいと思っています。

名張市は財政危機です。しかし、子供の給食費（センター）などが延期になっています。産科

もありません。そのような地域に子供、若い世代が集まってくるわけありません。病院も大切やけど、病院と教育（子どもの福祉）は切り離して考えるべきことです。なんとかなるなる名張？なんとかしないといけないです。そんなのんきな事を言っていないで、しっかりとわけて考える必要があります。中学校での弁当代金補助などしっかりと考えて欲しいです！それをしないと集まらないし、魅力ありません。子育てしやすい環境を整えることを第一に考えていくことで、見えてくるものが多いと思います

結婚、子育てについては色々と思うことはありますが、下記のように担当者から直接、となると躊躇してしまいます。我が子の世代は、まさに今、結婚を考えているというよう子が複数人いますが、名張市は子育てを長い目でみると、ちょっと、、と、市外を希望する子がほとんどです。そもそも、名張市に残っている子が少ない。子育て環境、このようになればいいのに、、と、友人同士で話しするばかりです。

名張は子育てに優しいと世間的には言われていますが、実際子育てをしている立場として感じるのは未就学児に手厚いだけであって、就学児以降に対しては扱いが疎かになっていると思います。中学の給食に関しても、結局後回し。子どもの話を聞いていると、学校にお弁当やパンなど持ってこない子も実際にいるそうです。（親がお弁当を作ってくれない家庭があると）そんな現状を、市は把握されているのでしょうか？このアンケートに関しても、市民意識調査と謳うのであれば、具体的なアンケートを行うべきだと思います。この内容であれば国勢調査と何ら変わらないのでは。

名張市だけ、中学校が弁当です。何年も前から給食になると話がありましたがいまだに実現しません。

中学校給食を早く進めてほしい

分娩が出来る産婦人科を早くお願いします。自分の子供の世代には中学校給食が始まっていることを願います。

名張市で出産施設等がないため、若い世代が住んでいくには、難しいと感じています。

名張は子ども産むところがなくなったし、もう終わり。第2子できてもどこで産めばいいのやら。第1子の時は家で破水して病院が近くだったためよかったけど、次も家で破水したら遠い所まで病院行くのは辛すぎる

安心できる救急医療をもっと拡充してほしい。若者が住み続けたいと思えるまちづくり。高齢化に伴う福祉の充実。

早く名張市内に産婦人科を作ってほしいです。子どもが産める産婦人科がないと、もし自分の子が大人になったときは名張には住んでほしくないです。

現状名張で子が産めないのを、ぜひとも解決お願いします

産婦人科を開業して頂きたい。子供産みたくても産まないのは可哀想やわ

名張市に産める産婦人科を切実に希望します

私はハイリスク妊娠だったため、出産は市外の総合病院にお世話になりました。市内のクリニックから綿密に連携していただけて本当にありがたかったですが、市立病院で取り扱っていただける体制があれば通院など楽な面もあったのではと思います。名張市内に出産できる病院がなくなってしまったことが非常に残念です。市立病院に産科、せめて院内助産などが設立されるとよいと思っています。

分娩できる場所がなくなったのが、とても困ります。子供を産めないまちに未来はないと思っています。

名張市内に産婦人科がほしいです。伊賀に1つしかなくてバンク状態になっている状況で子供がほしくてもつukれない産む場所がないって言うてる人はたくさんいます。

名張で出産しようと思っても産科がないので不便

名張市に分娩の出来る産婦人科を早急に作ってほしい

私は産まないが、名張市に産科が無くなった事はとても残念に思う。

お米券が欲しかった中学の給食もして欲しかった産婦人科がなくて困る

名張で安心して子育てをし、子どもが成長したらまた名張に定住したいと思えるような名張市になって欲しい

なんとかなるとかうたっておられますがなんとかなっていないのが現状だと思います。少子高齢化が進んでおり、高齢者が住みやすい街にするのもいいですが高校を卒業すると県外に出る子が多い傾向だと思います。そして名張には帰ってこない。同級生がどんどん減っていきます。子育てするには、名張市の産院もなくなり、公園は多いですが、遊具が汚い。外なので

汚れるのは仕方ないとは思いますが定期的なお掃除等は無いのでしょうか。口に手を入れたりしますので小さな子を連れて行くのに気が引けます。テレビをみて子育て世帯に寄り添った県に移住するのもいいねと夫婦で話すこともあります。名張市の魅力はなにか？と聞かれても正直思いつきません。中学校給食も私が学生の頃から言ってますが実現出来ず、母も大変がっかりしてました。子供もまだ小さいですが、期待はしないでおこうと思っています。伊賀市の力を借りるべきだとは思いますが難しいですよ。大変なのは重々承知しております。ですが公約を掲げたからには必ず実現させてほしいと思っています。

名張市は人口が減る一方で、特に未来を生きる子供の数が少なく、幼稚園や学校や習い事に行く度、子供の少なさを実感します。私は持病があり、名張市内の病院で出産する事が出来ませんでした。(断られました。) 県外での出産は不安と心配しかなく、陣痛がきてから1時間以上かけて県外の病院へ行く事は、心身共にとても大変でした。だからこそ、名張市でお産が出来るようになればと、何度も名張市に訴えてきましたが、「名張市立病院に産科を作れるよう動いてます」との事だったのに、名張市立病院どころか、市内唯一の産科が分娩をやめてしまい、これから子供を産みたい!! と思っている若者も不安しかないと思います。名張市が掲げる「ネウボラ」も、まず、子供を育てる前に産む場所が無かったら意味がないと思います。若者が市外・県外に出て行ってしまうのは無理もないです。今回、名張市に国からの補助金がおりましたと聞きました。ぜひ、若者そして未来ある子供達が名張市に増えてくれるよう、産科問題・中学校の給食実施に優先的に使ってもらいたいです!! あと、私は40年くらい名張市に住んでいますが、名張市は近畿圏(大阪や京都など)や名古屋にもアクセス良く、赤目滝や青蓮寺など観光地もあり、自然豊かでとても良い場所だと思います。何より、災害に強い場所でもあります。その辺ももっと上手くアピールし、名張市に観光客そして移住者が増えるようもっともっと動いて欲しいです。

周囲を見ると、夫婦共働きで子どもを育てている家庭は多くありますが、親と同居していたり、近くに親が住んでいるパターンが多く見られます。本当に夫婦のみで子どもを育てながら共働き(フルタイム)となると、子どもが小さいうちはかなり大変だろうと常々感じています。何か急を要することが起きた時、すぐに動ける者が身近に1人いるかないかで、日常生活の安心度や快適度は大きく変わると思います。そうしたことを踏まえると、個人的には子どもが小さいうち(小学校中学年くらいまで)は、親のどちらかは家庭を優先させられる働き方(時短勤務)ができる仕組みがもっと構築、普及するとういなど感じています。

生活改善、住み良い街づくりに税金が必要なのは当然理解してるが、名張市の税金は少々高過ぎると思う。

子ども欲しいですね。

名張市はいずれ破綻するという話が出ていますが、事実なのかどうか、事実なら、もっと市民に詳しく公表して、今できることをしていかないといけないと思います。幼稚園や病院などが次々と少なくなり、介護施設が増え、この先、名張に住み続けるしかない人たちにとって、不安を減らし、安心や希望がある市にしてほしい。産科がなくなったことも、里帰り出産が難しくなるので、娘がいる家庭には不安がある。市民の生の声を聞き、生かしてほしい。

名張市の危機的財政難に対し、人件費削減・事業の見直し等、民間レベルでもっと取り組んで頂きたい。まだまだ改善する所がある。

今後の名張市の良い未来について考えてほしい。

名張は関西圏からも近く、程よく田舎でとても良いところだと思います。もっとたくさんの方が住んで街が栄えて欲しいです。アンケート等ありましたらまた協力したいです。(インタビューとかはごめんなさい)

名張市はとても住みやすく居心地いい所です。ご近所さんとも仲良くさせて頂きランチへ行ったり、お土産など渡し合ったりしてます。車がないと不便だなと思うところは正直あり、将来、車を手放した際の老後の不安は若干あります。子供たち、長女は大阪で看護師。次女は神奈川で製薬会社に就職しました。まだ結婚はしていませんが、子供たちの生活もあるので、できるだけ迷惑はかけたくないと思います。両方の親の介護も始まって来ており、私が主に主人の母と実母の2人をみてます。そのせいか、ここ近年、自分の老後を考えるようになりました。断捨離、生命保険や預貯金、葬儀、持ち家をどうするか、などです。まだ早いと思っても人生あつという間です。健康年齢も考えて、老後のライフプランはしっかりと立てて行こう改めて思います。名張に引越しをして来て、早48年。地元の高校に進み、家から短大へ通い、地元の企業に就職。結婚、家を建て、子育て、そして老後。人生名張で過ごして来ました。子供たちも伸び伸び育ち、地元にも友達がたくさんいるので帰省し、楽しく過ごしている姿を見ると、名張はいい所だなあつつくづく実感。老後も名張で夫婦仲良く楽しく「ああ、イイ幸せな人生だった」と幕を閉じれるそんな毎日を今からも作っていきたいと思います。

名張は車がなければ住みにくい街だと思う他の地域に比べて医療や行政、学校全体の学力など劣っているところが多すぎて結婚がなければ住みたい街ではないし、生まれ育ちが名張の人間関係が密な為、知り合いが・・・という繋がりが多く噂もすぐ広まり怖いと思う他所から来たので余計に感じる

名張市に愛情はありますが、この先の期待は残念ながらございません。

子どもは2人とも名張を出て 他府県で働いています。名張で つきたい仕事がないようです。パートナーは伊賀市に通勤しています。生活するなかでは 電車やバスの公共交通機関もあり スーパーマーケットも多数、病院もあり 便利ではありますが 若い方にとっての魅力…は なんなのでしょう？観光の面でも 名張が潤うように活性化する方法は 何かないかな???

本当は結婚したら専業主婦がしたい人がいても、最近の風潮で言えないのでは？と思います。このアンケートですら、正直に答えられない人がいるのではないかと思います。女性が男性並みに稼いで同額家に入れるのは、殆どの女性にとってはキツイのでは？

派遣先の休みが多くて、復職しなければならないレベル。

もっと最低賃金の引き上げをしてほしい。名張は安すぎる。名張で子供産みたいと思わないし産んだとしても育てられないと思います。名張に関わらず今の日本で子育ては出来ない。

調査ありがとうございます。名張市は将来性のある高等学校や大学がなく、また高所得を見込める働く場所が少なく、若者が定着しにくいと思っています。大阪名古屋どちらにも行くことは可能ですが、どちらからも遠く、不便と感じます。またこのような地理的条件から何をやっても集客性があまり見込めません。大企業の誘致ができればと思いますが、高速道路、新幹線、飛行場等インフラ状況も悪く、未来あるまちづくりにはどうすればいいのか考えさせられます。盆地による寒暖差のある気候、土壌の良さなどを生かした農業の街なんかはどうでしょうか？現在の米不足を補えるような。自給自足出来ることが安定した生活に繋がるように感じます。更には収益性も必要ですが、一次産業の収益性があがるような国の政策が待たれるように思います。しかしながら、自然の残る閑静な街で住みやすいと感じてますが、老後には車が乗れなくなると終わってしまいます。子供には残念ながら名張での永住はすすめています。

ずっと不況が続いた上にコロナに物価高もあって仕事が減り収入が減り税金は上がりで金銭的に生活が大変だから子育て世代以外の世代にも何かしらの支援がないと結婚する余裕なんてないから少子化になるのも必然的だと思う

そもそも出会いの場が少ない。○歳以上の婚活パーティーがあるのは新聞で見たことがあるが、それ以外は自力でアプリなどを活用して積極的に探さなければならない。それを利用した性犯罪も増えており、どうしても乗り気にはなれない。今の時代、モラハラやストーカーの対策、子育て支援や給与の面でも安心できる環境では決してないのに、周りの声にうながさ

れて結婚を意識して恋愛を始めるほど安直な考えは持つことができない。私はペットを飼育しており、仕事中は親が面倒を見てくれている。結婚や子育てなどにより、現在のサイクルが崩れてしまうのが不安でそれも結婚しない理由の一つです。

中高生の給食 2 歳未満の保育代無償化名張で子供を産めるように再度、産婦人科の導入若者が住みやすい街づくりをしてほしい。高齢化が進んでいて若者がどんどん減って行ってる印象がある。高齢者の意見よりも、若者の意見をどんどん取り入れてほしい。

全然産み育てやすい町ではない交通機関がなさすぎる！年寄りの危険運転が多すぎる！

スーパーばかりできますが、ショッピングモールがあった方がいいです。

通勤もしやすく名張は便利であるが、名張市の HP が見にくかったら市の情報発信が全くされていないように感じる。また、高齢者が多くなるのはわかっているが、やはり、高齢者ばかりに目を向けるのではなく、若者が戻ってきたいと思える名張であってほしい。私も、県外へでて、生活し、今は夫婦共々県外で働いているが、子育て環境がよく名張に戻ってきた。そういう中間世帯が増えるような仕組みが必要だと感じる。また、食、観光とそろっているのに県外への PR もかなり不足している。名張市だけでは財政確保が難しければもっと周りを取り込む必要性を感じる。いいところは残しつつ、変化を恐れず若い力を生かした市の運営を望みます。

このような意見の機会をありがとうございます。私には子供がおりませんが、妊婦や子育て支援、子供が自ら望み興味があることに支援をしていただき、市民と共に積極的に良くしていく名張市に期待しております。そして、無農薬やオーガニックを地場に広げていただき農家農業へも御支援いただけますよう食の安心安全を願っております。

- ・仕事との両立を図るに辺り、親のサポートを必要とするが、足腰弱い人が住める住居が見つからないので、市内では住めなくなる。
- ・出産の出来る場所が無く、出産に対し不安しか無い。

名張市に住むメリットが感じられない。

結婚や子育てを名張市するメリットが治安の良さ土地の安さ自然以外何もない。補助なども無く、いっぱいいっぱい生活している。

名張は丘陵の土地にある地域なので…どうしても車が必至です。歩く為の歩道がなかったり

…狭かったり…危なかったり…デコボコで舗装や改良が必要な場所が沢山あります。また坂が急すぎる場所があり…そこを避けると遠回りをしないといけないなど…どちらにしても疲れてしまい…買い物や出かけるのが億劫になりやすいです。ちょっとした買い物や出かけるにしても車を使う事が当たり前で…もう少しコミュニティバスの本数や範囲を広げ、車を持っていない世帯や高齢の方でも気軽に出掛けられるような仕組みがあったらいいなと思います。その点で自身も老後など…この地域で住むのはしんどそうだな…と考えてしまいます。また、大きなショッピングモールなどを作ったり楽しい住みたい街になったら…もっと若い世代が住みやすい土地と認識し(リモートが多くなってるからこそ)移住してくれるのではないかと考える事があります。名張は私が住んでいた街と比べると…自然豊かで、1つ1つの家や土地がとても大きく庭があり…でも土地や家が安いです。休みの日は仕事と全く違う環境が味わえホッと出来るという魅力がしっかりあります。コミュニティバスの範囲の拡大や本数を増やすや、大きなショッピングモールがあると…雇用も増え…働き方に悩んでる方達の大きな希望になるのでは…と思います。駅には必ず人が集まるのでそういう周辺から改良して行ったら…と日々感じます。街作り、コミュニティの強化に迅速に見て分かるような対応してほしいです。

長い

アンケートにしては、時間をとられた

さつき台が入っていませんでしたので薦原にチェックしました。

Q36 の薦原の字が間違っていると思います

Q36 に、富貴が丘が入ってないのですがどうしてでしょうか！？

Q36 に国津はあるのに何故、滝之原が無いのですか？Q36 に少し不満を感じました。

アンケートへのアクセスを QR コードのみでなく、コードの下に URL も入れておいてほしい。

封筒のシールが歪んでいた、開封する気にならなかった。

名前の漢字が間違っていました

時代錯誤な質問がいくつかあるなと感じました。

40-50代の人にもアンケートして意味ありますか

選択肢にない回答がけっこうあったので困った。その他という選択肢もないところもあったので、違うと思いながら選択したところが何ヶ所かあった。

時代に合っていない内容も多く、市を良くしたいや、研究に役立つのか疑問ですが、頑張って下さい。

色々思うことはあるが、記入したところで改善されないと感じるので、記入は致しませんが、このように改善してほしいくても意見したところで…と言わない市民もいることだけでも感じてもらえたらと思う。

夫婦のあり方について、男女に分けて考えたがる節があり、人によっては答えにくい質問があるようです。アンケートの趣旨が伺い知れますので、多用しないで戴きたい。

ステレオタイプな型にはめようとしなくてほしいです。

質問自体が男女へのこだわりがありすぎると思った。今の時代、男であろうが女であろうが自分自身が出来ることをすれば良いと思う。固定概念に囚われている質問だったように思われる。男女で身体的にどうしても出来ないことがある。例えば出産はどうやっても今のところは女性にしか出来ないことだし、体格的に男性しかできないこともあると思う。その中でも女性でも男性より上回る体力を持っている方もおられるし、男性でも女性よりも繊細な事が出来る方もいます。なので男ならこうしなければいけない！女ならこうでなければならぬ！って言う事はないと私は思う。

今回の調査は、2,700人だけを対象にするのではなく、もっと広く市民の声を集めるべきだと思います。結婚や子育ては、私たちの生活そのものに直結する大切なテーマです。無作為抽出だけでは、本当に困っている人や声を届けたい人の思いが十分に反映されないと感じます。答える人・答えない人の偏りもありますし、たくさんの方の本音を拾いきれていないのではないのでしょうか。私は、時間というものが一番価値のあるものだと思っています。市民が20分という大事な時間を使って真剣に回答する以上、その思いが必ず名張市の具体的な行動につながることを望みます。市民の時間と声を軽く扱わないでください。この調査がどのように施策へ反映されるのか、今後の公表をしっかりと見させていただきます。

名張の結婚と子育てに関する調査報告書

四日市大学公共政策研究所

2026年3月